認知症介護 研究・研修 東京センター

2008 年報

社会福祉法人　浴風会
認知症介護研究・研修東京センター

2008年度
認知症介護研究・研修
東京センター

年報

序にかえて

＊

認知症のケアに新しい風が吹き始めました。2008年7月，厚生労働者は認知症対策に関する緊急プロジェクトを公表しました。そのなかで，認知症介護研究・研修センターの充実と共に認知症介護指導者の研修や指導者による認知症ケアの普及が記載されています。私たちセンターに対する期待が大きいことは明らかです。

＊

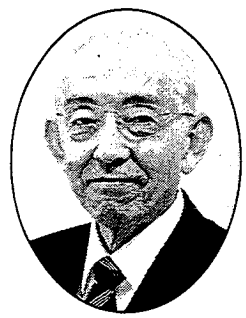
新しい風の主流に地域ケアがあります。2007年度にひきつづいて認知症地域支援体制構築等推進事業が行われました。全国の地方自治体等が認知症の地域ケアを推進する事業です。82に及ぶモデル地域が設定され，それぞれの地域文化のなかで認知症とその家族への支え合いの仕組みを作ることが続けられています。従来の「認知症でもだいじょうぶ」な町づくりにつながるものです。東京センターは，本事業へのサポート役として積極的にかかわっています。

＊

また，東京センターでは2008年度から新しく，認知症ケア高度化推進事業として認知症ケアの標準化を進めています。事例の蒐集と分析が行われ，ホームページ等を活用してパーソンセンタードケアの理念のもとにケアの個別的な視点を伝える仕組みを創っています。「ひもときねっと」と呼び，3センターの指導者が主役です。並行して介護現場への訪問相談事業が行われ，期待を集めています。さらに海外での認知症ケアの実態調査等が行われ，手始めにスウェーデン，オーストラリアを対象に事業が進行しています。

＊

2008年度は，米国に端を発した世界同時金融不安により，急速な景気の悪化と雇用不安が社会問題となっています。一方で超高齢化はさらに進行し認知症をめぐる課題は山積しているのが現状です。これからの認知症ケアを牽引するのは，認知症介護研究・研修センターです。どのような状況にあっても志を高くもって今の現実に対し一歩一歩努力したいと念願しています。



社会福祉法人　浴風会
認知症介護研究・研修東京センター
長谷川　和夫

序にかえて …… 3

Ⅰ 研究活動

1．研究活動の概要 …… 8

2．2008年度の研究事業成果報告 …… 9

1）認知症介護予防のための地域支援に関する調査研究 …… 9

2）Web学習を用いた知識学習による認知症ケアの理解向上のための啓発事業 …… 11

3）自治体における認知症地域支援体制構築の効果的な推進に関する研究 …… 13

4）認知症介護実践者研修の効果の検証 …… 15

5）認知症介護指導者の安定的な確保のための効果的な研修カリキュラムの開発 …… 17

6）これからの認知症介護指導者に求められる能力と活動領域の開発 …… 19

7）ユニットケアの推進に関する調査研究事業 …… 21

8）認知症地域ケア体制の関係者共同研修のあり方検討会 …… 23

9）認知症地域ケア体制構築を行う人材育成のあり方等検討委員会 …… 24

Ⅱ 研修活動

1．研修活動の概要 …… 28
2．認知症介護指導者養成研修事業 …… 29
1）2008年度カリキュラム概要 …… 34
2）2008年度のカリキュラムの評価 …… 35
3）認知症介護指導者フォローアップ研修 …… 36
3．ユニットケア研修事業報告 …… 39
4．認知症の人のためのケアマネジメント推進事業 …… 47

Ⅲ その他の事業

1．2007年度東京センター研究成果報告会開催報告 …… 50
2．認知症ケア高度化推進事業 …… 51
3．認知症介護研究・研修東京センター講演会 …… 52
4．医療機関における認知症ケアの質向上と効果的な地域連携を目指した普及・啓発事業 …… 53

Ⅳ スタッフ紹介 …… 56

Ⅴ 運営部活動報告

1．事業実践記報告 …… 66
2．2008年度東京センター活動一覧 …… 70

I
研究活動

1．研究活動の概要

センターが発足して9年が経過しました。この間に認知症をめぐる社会的関心も増えてきました。認知症への理解や地域で認知症を支えようとする取り組みも広がりをみせています。誰でもが将来経験するかもしれない認知症を住み慣れた地域で支えたい，あるいは認知症になってもずっと住み続けられる町でありたい，という私たちの共通の願いはますます強まっています。そのためには地域の中に小規模で多くの機能を持つ介護支援施設が必要です。と同時に認知症の障害や疾病に対応できる医療施設の整備も不可欠です。

こうした動きを受け，認知症介護研究・研修東京センターの介護研究をめぐる研究テーマも施設介護，介護技術に関わる研究テーマに加え，地域で認知症の人を支えることを意識した研究に取り組んできました。

ところで認知症介護のシステムとしての支えの中心は介護保険制度にあります。発足して約10年，制度としてはほぼ定着してきています。一方で，この10年間に制度の不具合もなお残り，保険給付にあたるサービスの内容もまだ十分とはいえません。保険財政は今後とも逼迫した状態が続くでしょう。介護サービスの上限が介護保険給付で決められている中でサービスの質の向上が常に求められという宿命を負っています。

研究部としては介護保険制度の中での介護サービスのあり方を意識しながら，研究者個人の関心領域を背景に研究課題を設定しています。具体的には認知症介護のナショナルセンターとして必要な研究の方向を次の五つの視点から考えてきました。①個別の施設，あるいはサービス業種を超えた横断的調査研究の設計。②個別事例を収集，分析する役割（虐待，処遇困難例，）③認知症介護に関するコホート研究を継続し，データベース，エビデンスを蓄積する④リスクマネージメントに関する情報収集と研究⑤認知症の理解や介護対応についての理解向上と啓発事業

以上のような観点から平成20年度は次のような研究課題を遂行しています。

老人保健健康増進等事業費から

① 認知症介護指導者の安定的な確保と効果的な活動のあり方に関する研究
② 認知症介護予防のための地域支援に関する調査研究
③ 自治体における認知症地域支援体制構築の効果的な推進に関する研究
④ ユニットケアの推進に関する調査研究
⑥ 認知症専門医療との連携や，地域における共同研修のあり方等地域包括支援センターを地域の中心とした地域ケア体制の構築に関する調査研究

独立行政法人福祉医療機構長寿社会福祉基金から

① Web学習を用いた知識学習による認知症ケアの理解向上のための啓発事業

その他の研究から

① 地域資源マップの作成
② 認知症高齢者に対する美容技術の応用とその効果に関する研究
③ 食事摂取量と認知レベルに関する研究

個別の研究成果についてはそれぞれの報告書で詳しく書かれていますのでぜひご参照ください。

（須貝 佑一）

2．2008年度の研究事業成果報告

1）認知症介護予防のための地域支援に関する調査研究

【第1事業　作業部会委員】
須貝　佑一（社会福祉法人浴風会　浴風会病院　診療部長）
杉山　智子（順天堂大学医療看護学部　高齢者看護学　講師）
林　　邦彦（群馬大学医学部保健学科　医療基礎学　教授）
古田　信夫（社会福祉法人浴風会　浴風会病院　精神科医長）
松村　康弘（桐生大学医療保健学部栄養学科　教授）
丸井　英二（順天堂大学医学部　公衆衛生学　教授）
山本精一郎（国立がんセンターがん対策情報センター　がん情報・統計部　がん統計解析室　室長）
吉田　亮一（社会福祉法人浴風会　浴風会病院　副院長）
（研究協力者）
高山　光代（大正大学人間学研究科）
梁　　春玉（順天堂大学大学院医学系研究科　協力研究員）

【第2事業　作業部会委員】
遠藤　　忠（認知症介護研究・研修東京センター　非常勤研究員）
小野寺敦志（認知症介護研究・研修東京センター　研究企画主幹）
鈴木美佳子（杉並区社会福祉協議会　総務課長）
高林　一宏（浴風会　地域サービス部　第二南陽園デイサービスセンター長）
久松　信夫（桜美林大学　健康福祉学群　講師）
牧野　史子（NPO法人　介護者サポートネットワークセンター・アラジン　理事長）
丸山　　晃（十文字学園女子大学　人間生活学部人間福祉学科　講師）

■研究結果の概要

認知症介護予防のための地域支援に関する調査研究事業を遂行するにあたって事業を2分割し，第1事業「介護予防の観点からみた認知症早期発見とその後の介護保険利用状況の調査研究」事業，第2事業「認知症予防のための住民ボランティア育成と活用に関する調査研究」事業とした。

本調査研究事業は認知症の早期発見がその後の介護保険利用とどうかかわっていくのかについて調査し，早期発見が介護予防にどのように寄与しているかについて検討するとともに認知症介護予防のための地域支援に関する事柄について調査研究することにある。そこで，浴風会病院でこれまで5年間にわたり行われてきた認知症集団検診で発見された早期の認知症高齢者についてその後の処遇，介護保険利用状況を調べるとともに早期発見から介護保険の利用，実際の要介護状態への移行までの推移を分析することとした。なお，早期認知症化は高齢者の普段の生活習慣とどのように関連するかについても併せて調査し，介護予防の観点から日常の生活指導の要点について整理し直すこととした。

これと併行して介護予防を視野に認知症ケアの人的資源となる地域住民に対するボランティア育成のための研修と組織つくりについて調査研究を行い，ボランティア育成の方法とボランティア活動を支援する組織つくりの方法についての具体的方策を検討し資料として提供することを目的とした。

第一事業の結果：杉並コホートとして登録(死亡者除外)されている 676 人のうち今年度も調査に同意し，検診ならびに生活習慣調査に来られた人はコホート全体の 62%にあたる 420 人(男性 151 人，女性 269 人)で，平均年齢は 79.6 歳だった。そのうち男性は平均 79.3 歳，女性は 79.7 歳である。受診者年齢の男女差はみられなかった。

認知機能を調べる簡易知能テスト MMSE の平均は 27.8 点，(男性 28.1 点，女性 27.6 点)だった。早期発見の鍵となる記憶機能をより深く調べるために追加した物語記憶再生テスト(注；10 点満点)の平均は 7.0 点(男性 7.3 点，女性 6.9 点)だった。このうち MMSE 総点が 24 点以下は 39 人，全体の 9.3%に相当し，MMSE の推奨スクリーニングレベル(認知症相当の知的低下レベル)である 23 点以下は 28 人，6.7%だった。これを男女別にみてみると 23 点以下は男性 4.6%に対して女性は 7.8%を占め，認知レベルの低下は女性が優位であった。

頭部 X 線 CT 検査は 416 人受診し，視察画像上で①異常なし②年齢相応の脳萎縮③やや目立つ脳萎縮 ④わずかな脳血管障害⑤脳梗塞像など明らかな脳血管障害あり，で区分した。その結果，①の異常なしは 86 人，全体の 20.7%②の年齢相応の脳萎縮のみられる人は 256 人，全体の 61.0%で，この両者で 82%を占めた。③明らかに目立つ脳萎縮は 33 人にみられ，全体の 7.9%であった。④何らかの脳血管障害がみつかる人は 41 人(9.8%)となっている。2007 年度検診受診者のうち，今年度検診未受診者は 67 名であった。

介護保険制度について知っているものは 397 名(94.5%)でほぼ周知されていたが，介護認定を受けていたものは，420 名中 75 名(17.9%)であった。また，MMSE が 24 点以下の認知症レベルの知的低下がみられている人でも介護認定を受けていないものが半数以上いた。

一方，地域住民に対するボランティア育成のための部会ではヒアリング調査は，ボランティア育成とボランティア活動の支援を行っている団体等に，平成 20 年 11 月～平成 20 年 12 月までで実施した。その結果，団体ごとに目的と活動内容を明確にしてボランティア育成がなされ，ボランティア活動が実施されていた。また，各団体において，行政との連携およびバックアップのもとで，ボランティアの受け皿や活動場所が確立されていた。そして，ボランティア活動の継続のために，その活動を十分に理解し支援するコーディネーターの存在が認められた。ボランティア養成講座は，平成 21 年 2 月 9 日～平成 21 年 3 月 4 日まで，講義 2 日間，実習 2 日間の講座を開催した。講座の受講者は 7 名であった。講座評価のために，受講者にアンケート調査を受講開始時と終了時に実施した。その結果は，調査用紙が受講者のボランティアに関する主観的評価であったため，有意な変化は認められなかった。講座終了後，2 名がボランティア活動の意思表示をした。

2）Web 環境を用いた認知症ケアの質向上のための啓発事業

【Web 学習コンテンツ作成事業　作業部会委員】
秋田谷　一（社会福祉法人勲功会　特別養護老人ホーム祥光園）
阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター）
小野寺敦志（認知症介護研究・研修東京センター）
中西　誠司（医療福祉法人寿栄会　介護老人保健施設青い空の郷）
中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター）
中村　裕子（認知症介護研究・研修大府センター）
林田　貴久（社会福祉法人恵仁会　特別養護老人ホーム鹿屋長寿園）
【転倒・転落事故防止対策事業　作業部会委員】
小林　奈美（鹿児島大学医学部保健学科地域看護・看護情報学講座）
須貝　祐一（認知症介護研究・研修東京センター）
杉山　智子（順天堂大学医療看護学部高齢者看護学）
山本精一郎（国立がんセンターがん対策情報センターがん情報統計部がん統計解析室）
山本真梨子（認知症介護研究・研修東京センター）
【オブザーバー】
藤本　俊二（スタートコム株式会社）
古谷　　真（スタートコム株式会社）
渡辺みのり（スタートコム株式会社）

■研究結果の概要

「Web 学習コンテンツ作成」事業では CD-ROM の使用に関するアンケート調査で，249 箇所中，93 箇所から回答を得た。その結果，CD-ROM を使用した勉強会を開催した実施者からの回答では，「学習内容は参加者に役に立ったと思うか」について 83 名（89.2%）が「役立つ」と回答していた。勉強会に参加した参加者からのアンケート調査は，754 名の回答を得た。参加者からの回答では，「学習内容は役に立ったと思うか」について 654 名（85.5%）「役立つ」と回答していた。約 8 割の実施者ならびに参加者が，学習内容は役立つと評価していた。

CD-ROM 版は，都道府県・指定都市の認知症に関連する研修で活用してもらうよう認知症介護指導者に配布した。

新規 Web 学習コンテンツは，「その人らしさを支援するための理解」というタイトルで 4 テーマ 20 コンテンツを作成し，3 月に「認知症介護情報ネットワーク」（通称：DCnet）に掲載した。

「転倒・転落事故防止対策」事業では Web 上 DCnet フォーラムを通してアンケートに協力を得られた件数は 4 件のみであったが，問い合わせは 10 件あった。回答者からは，使用希望の有無については全員が「使用したい」と回答していた。その理由は，転倒リスクが数値化されることで（家族に対して）説明しやすい，職員教育の一環として使用できる，簡単である等であった。

また，シンポジウムについては平成 20 年 8 月 23 日に認知症介護研究・研修東京センターにて，「認知症高齢者の転倒を重大事故にしないために」のテーマでシンポジウムを開催した。内容として，教育講演 2 題とシンポジウムの構成で行った。シンポジウムは，「転倒・

転落事故を防ぐ工夫と事故後の対策」をテーマとし，3 名の臨床において各分野にて活躍されている 3 名のシンポジストとともにディスカッションを行った。開催告知の方法は，8 月中旬より，Web(DCnet)上への掲載，チラシ配布，ポスター貼付を行った。DCnet では，チラシならびに参加希望 FAX 用紙をダウンロードできるかたちをとった。なお，チラシは関東地区の介護保険施設ならびに認知症専門病棟を有する関東地区の病院に対し，述べ 1400 通を送付した。参加者は，事前の参加希望人数は 238 名，当日の参加人数は 208 名であった。また，終了後のアンケートは回答数が 155 名（回答率：74.5%）であり，結果から認知症高齢者向け転倒・転落事故予測尺度(FRAT-DESK)の普及を計ることができたと同時に，認知症高齢者の転倒・転落事故に関する知識向上に貢献したと考えられた。

3）自治体における認知症地域支援体制構築の効果的な推進に関する研究

遠藤　英俊（国立長寿医療センター）
井伊久美子（日本看護協会）
岩尾　　貢（全国認知症グループホーム協会）
勝田登志子（認知症の人と家族の会）
川原　秀夫（全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会）
木村　隆次（日本介護支援専門員協会）
田中　雅子（日本介護福祉士会）
野中　　博（野中医院）
早崎　正人（大垣市社会福祉協議会）
水井　勇一（加賀市役所）
吉川　悠貴（認知症介護研究・研修仙台センター）
藤井　滋樹（認知症介護研究・研修大府センター）
長谷川和夫（認知症介護研究・研修東京センター）
永田久美子（東京センター）

■事業目的

平成 19 年度から 2 ヵ年に渡り全国の都道府県モデル地域で展開されている認知症地域支援体制構築等推進事業が円滑に進むための体系的な支援を行うとともに，モデル地域の取り組み経過と成果・課題を集約し，21 年度以降，全国の自治体で認知症地域支援体制づくりがより効率的に進捗していくための推進策を検討する。

■事業概要

1. 認知症地域支援体制推進委員会の開催（委員13名，3回）
2. モデル地域合同セミナーの開催およびセミナー終了時アンケート調査の実施
3. 都道府県・モデル地域の活動経過と成果および課題に関する継続調査の実施（3回）
4. 都道府県・モデル地域の事業成果物の収集と集約
5. 報告書の作成

■方法・結果

1. モデル地域合同セミナーの開催およびセミナー終了時アンケート調査の実施（3回）

事業の展開段階に即して，7月，10月，1月の計3回，全国の都道府県およびモデル地域（82）の関係者を対象とした合同セミナーを開催した。事業を円滑に推進するための方法や先進事例の情報を提供するとともに，各モデル地域の担当者（行政職，コーディネーター，地域包括支援センター職員など）合同でのグループワークを試行し，地域支援体制作りを効率的にすすめるための課題の整理や地元事情に応じた実質的な推進策の企画立案，成果と今後の課題の整理等を系統的に推進した。

記入されたワークシートの分析および終了時アンケートの結果，セミナーの高い有効性，波及効果，内容の妥当性が確認された。また，次年度以降も全国レベルの合同セミナーの継続的な開催を求めるニーズが都道府県・モデル地域共に高いことが明らかになった。

なお，合同セミナーを通じて先進的に取り組んでいる行政職員ならびにコーディネータ

一等の全国ネットワークが形成され，今後，認知症地域支援体制づくりを全国的に推進していく上で牽引役としての機能を果たすことが期待された。

2. 都道府県・モデル地域の活動経過と結果，課題に関する継続調査（3回）

1）事業の総合的評価

都道府県の全数およびモデル地域の96.0%が，モデル地域内での体制つくりが進展したと回答し，事業に関する総合評価が高いことが確認された。

また，40.4%のモデル地域では，生み出されたつながりを通じて本人と家族が支えられる実例が増えてきており，体制づくりが最終目的である当事者の地域支援に有効に機能しだした成果が確認された。

2）事業の個別課題の進捗成果およびモデル例の把握

モデル地域におけるコーディネーターの配置や活動，資源マップつくり，徘徊SOSネットワーク作り等の実施率が，モデル事業スタート前に比較して，いずれも大きく伸びたことが確認された。またその進捗経過と方法，課題が把握された。

個別課題の遂行と同時に，それらを総合的・効率的に推進するために必要な要件とプロセスが把握され，全国のモデルとなる取り組みを集約した。

3）事業の波及効果

事業に着手したことが契機となって，関連事業であるかかりつけ医対応力向上研修や医療連携，地域密着型サービスの地域拠点化，認知症サポーター養成，虐待対策などが相乗に進展する波及効果が確認された地域が多く，地域支援体制づくりが認知症対策の総合化を実態的に推進するための重要な施策となるうることが確認された。

4）支援体制構築に関する課題

継続調査の結果や合同セミナー時のワークシート等をもとに，事業全体の推進および個別課題遂行上の課題が把握された。課題はモデル地域の特性を反映して多岐に渡るが，共通の課題として，①事業の総合的な成果の最大化と継続的体制づくりにむけた基盤固め（事業ビジョン，実態把握，推進コアメンバーのチーム作り等），②支援体制づくりの企画や運営をしていく行政担当者の視点と事業マネジメントの力量，③コーディネーターの継続的確保，④支援体制づくりを継続的に発展させていくための仕組みづくり，⑤支援体制と個別支援の連結等である。今後，全国の自治体が地域づくりを着実に推進していくために，これらの課題克服にむけた具体的対策および自治体支援が求められている。

なお，上記の課題を一体的に克服する一方策として，本人中心の地域づくりを推進するための共通ツールとしてセンター方式を自治体として活用することの有効性が確認された。

5）都道府県管内自治体への普及・推進

モデル地域の取り組みを活かし，県下での支援体制づくりも展開している自治体が11.1%みられ，今後の他都道府県の取組みの参考例が把握された。

3. 都道府県・モデル地域の事業成果物の収集と分析

各モデル地域の事業の最終成果物としての資源マップや徘徊 SOS 模擬訓練のマニュアル等を収集するとともに，その作成方法や内容を特徴別に分類し，今後事業に取り組む自治体の参考に資するための「認知症地域支援体制作りのためのアーカイブス」の基礎をつくった。

4）実践研修の効果の検証

山宮　順子（川崎市社会福祉協議会　人材開発研修センター）
狩野　由子（群馬県立高齢者介護総合センター）
遠藤　真一（老人保健施設　グリーンヒル与板）
松永美根子（介護老人保健施設　孔子の里）
清水　修一（株式会社　あんじゅう）
石井　利幸（介護老人保健施設　ひもろぎの園）
富田　利美（グループホーム　大社）
小林　厚子（株式会社クロス・サービス　福祉事業部）
田中　涼子（高齢者福祉総合施設　ももやま）
山田健一郎（在宅サービス供給ステーション　静華苑）
渡邊　一江（グループホーム　せせらぎ）
小池富士子（介護老人保健施設 朝日ホームおんせんリハビリテーションセンター）
佐藤　信人（武蔵野大学）
西原亜矢子（放送大学）
矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター）
大嶋　光子（認知症介護研究・研修大府センター）
諏訪さゆり（認知症介護研究・研修東京センター）
中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター）
齊藤　祐介（認知症介護研究・研修東京センター）
木澤　則子（認知症介護研究・研修東京センター）

■背景と目的

認知症介護の質の向上を目指して，平成 13 年度より国の認知症介護研修事業として認知症介護実践研修（実践者研修ならびに実践リーダー研修，ただし，平成 16 年度までは認知症介護実務者研修基礎課程・専門課程）が実施されてきた。認知症介護実践研修は，全国 3 か所（東京・仙台・大府）に設置されている認知症介護研究・研修センターにおいて実施する認知症介護指導者養成研修を修了した認知症介護指導者を中心に運営されている。本事業では，認知症介護実践研修を修了した介護従事者について，実践研修受講後の学びの評価を行い，もって実践者研修・実践リーダー研修の効果を検証することを目的とした。

■方法

東京・仙台・大府センターが担当する地域からそれぞれ 4 地域ずつ，合計 12 地域を選定し，研究協力依頼を行った。研究に協力の得られた地域において実践研修を修了した者のうち，平成 19 年度及び平成 20 年度に研修を修了した者を対象に，郵送法によりアンケート調査を実施した。調査票は，当該地域において平成 19 年度及び平成 20 年度に研修を修了した者全員に送付した。調査票は，実践研修の標準的カリキュラムにおいて設定されている各単元のねらいを参考に研修の効果を測定するための評価項目を作成し，それらの項目について研修修了後「意識できるようになったか」「考えられるようになったか」を 0～3 点までの 4 件法で問う内容とした。調査期間は，平成 21 年 1 月 27 日（火）～平成 21 年 2 月 17 日（火）であった。

■結果と考察

実践者研修修了者を対象とした調査票の配布数は5114部であり，そのうち2778部を回収した（回収率54.3%）。またリーダー研修修了者を対象とした調査票の配布数は，488部であり，そのうち298部を回収した（回収率61.0%）。実践者研修修了者は32項目中28項目で平均点が2点を超え，ほとんどの項目で学習内容を意識できるようになったと答えた。評価の平均点が2点を割ったのは「認知症の人の家族成員，一人ひとりが抱えている課題を意識する（1.99 点）」「地域社会が認知症の人に与えている影響を意識する（1.73 点）」など家族支援や地域に関する内容であった。一方リーダー研修編修了者は，16項目中9項目が平均点2点を上回った。「自施設・事業所を利用する認知症の人の支援において地域資源を適切に活用するためにリーダーとしてどうしたら良のいかを考える（1.72点）」「自施設・事業所で認知症介護の質向上を目指し，Off-JT(勤務を離れた教育の場での研修)を行うときにリーダーとしてどうしたら良いのか考える（1.70 点）」など，地域支援に関する項目や勤務を離れた場での教育技法についての評価が他の項目より評価が低い結果となった。

5）認知症介護指導者の安定的な確保のための効果的な研修カリキュラムの開発

矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター）
合川　央志（認知症介護研究・研修仙台センター）
大嶋　光子（認知症介護研究・研修大府センター）
中村　裕子（認知症介護研究・研修大府センター）
諏訪さゆり（認知症介護研究・研修東京センター）
中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター）
齊藤　祐介（認知症介護研究・研修東京センター）
木澤　則子（認知症介護研究・研修東京センター）

■目的及び方法

本事業では，受講者がより受講しやすい認知症介護指導者養成研修カリキュラム構築を目指し，3 センターの研修担当スタッフを中心とした委員会によるカリキュラム検討と都道府県政令市の認知症介護実践者等養成事業の担当者に対する研修会を行った。当該研修会は，都道府県政令市の実践者等養成事業担当者を対象に各都道府県政令市での認知症介護実践者等養成事業の実施状況を共有するとともに，平成 21 年度以降の認知症介護指導者養成研修の要項案及びカリキュラム案を周知し，運用に関する意見交換を行うことを目的に実施した。開催日時は平成 21 年 1 月 28 日 14：00－16：50 とした。研修会のプログラムを表 1 に示す。なお，研修会に際し，各都道府県政令市の認知症介護実践者等養成事業の実施状況に関するアンケート調査を事前に行い，その結果を共有した。アンケート調査は，平成 20 年度の実践者研修・実践リーダー研修の開催回数，修了者数，受講料，指導者養成研修への受講者の推薦予定数，平成 21 年度以降の実践者等養成事業の実施主体の予定などを問う内容とした。

表 1　平成20年度認知症介護実践者等養成事業にかかる都道府県等担当者研修会プログラム

	内　　容
14:00－14:15 開会	開会あいさつ　東京センター　センター長　長谷川和夫 本研修会の目的説明及びスケジュール説明 進行：東京センター　主任研修主幹　諏訪さゆり
14：15－14：45 基調講演	『地域認知症介護支援の課題と展望』 演者：厚労省老健局　計画課　認知症・虐待防止対策推進室 座長：仙台センター　センター長　加藤伸司
14：45－15：05 報告	『情報共有用アンケート結果報告』 担当：東京センター　主任研修主幹　諏訪さゆり
15:05－15:15	休　憩
15:15－16:45 報告及び討議 報告　20 分 全体討議　70 分	『平成21年度以降の認知症介護指導者と認知症介護実践者等養成事業の方向性』 報告者：東京センター　副センター長研修部長　今井幸充 「平成21年度以降の認知症介護指導者養成研修及び認知症関連新規事業について」 座長：東京センター　研究企画主幹　小野寺敦志
16：45－16:50 閉会	閉会あいさつ　大府センター　センター長　柳務

■結果

全国41か所の都道府県政令市から46名の行政担当者の参加を得ることができた。研修会における討議により，平成21年度以降の認知症介護指導者研修の要項及びカリキュラムに対する意見を収集し，それらを踏まえた研修カリキュラム再検討を行った上で指導者養成研修のカリキュラムを開発した。（表2参照）また，それらを周知するためにリーフレットを作成し，配布した。

表2　認知症介護指導者養成研修新標準的カリキュラム案

教科・単元名	時間数
1　認知症介護研修総論（講義・演習27時間）	
1）開講式・研修オリエンテーション・自己紹介グループ形成	演習等7時間
2）修了式・ネットワークについて	演習等1時間
3）介護理念の重要性の理解と展開方法	講義・演習2時間
4）倫理と認知症介護	講義・演習2時間
5）研修目標の設定ならびに面接・研修総括	演習等6時間
6）認知症介護に関連する法制度の理解	講義2時間
7）認知症介護指導者の役割と理解	講義3時間
8）成人教育・生涯教育論	講義3時間
9）DCネットの説明	講義・演習2時間
2　人材育成と教育実践（講義・演習82時間）	
1）人材育成論	講義3時間
2）研修企画と評価	講義・演習15時間
3）実践指導方法論	講義・演習32時間
4）授業設計法	講義・演習32時間
3　地域ケアの実践（講義・演習43時間）	
1）地域連携の理解	講義・演習5時間
2）地域における高齢者虐待防止と権利擁護	講義・演習3時間
3）相談と支援のためのコミュニケーション	講義・演習3時間
4）地域・介護現場における課題解決の実践	演習または実習32時間
4　課題解決のための実践（講義・演習・実習48時間）	
1）介護実践の研究法・評価方法	講義・演習8時間
2）「自職場における課題解決のための実習」の準備・まとめ	講義・演習40時間
3）自職場における課題解決のための実習	実習4週間

6）これからの認知症介護指導者に求められる能力と活動領域の開発

阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター）
矢吹　知之（認知症介護研究・研修仙台センター）
合川　央志（認知症介護研究・研修仙台センター）
藤井　滋樹（認知症介護研究・研修大府センター）
大嶋　光子（認知症介護研究・研修大府センター）
中村　裕子（認知症介護研究・研修大府センター）
諏訪さゆり（認知症介護研究・研修東京センター）
中村　考一（認知症介護研究・研修東京センター）
齊藤　祐介（認知症介護研究・研修東京センター）
木澤　則子（認知症介護研究・研修東京センター）

■目的

認知症介護指導者の活動の可能性として，認知症介護に関する地域連携の推進を行う役割を想定し，そのためのスキルアップ研修を実際に展開し評価を行うことにより，認知症介護指導者の活動領域の可能性について検討することを目的とした。

■方法

スキルアップ研修のカリキュラムは，3 センターの研修担当者で組織した委員会により検討し作成した。その後認知症介護指導者に対し，研修の受講を依頼し，そこでの経験をふまえ受講した研修の目的や内容，方法について評価を求めるという流れで行った。研修は「認知症介護指導者地域連携スキルアップ研修」と命名し，平成 21 年 1 月 9 日～1 月 12 日の期間で実施した。対象は東京・仙台・大府の各センターを修了した認知症介護指導者のうち，地域連携について関心を持ち，地域における認知症介護の質向上に取り組んでいる者を 16 名選出し受講を依頼した。当該研修の研修目的は「地域における認知症ケアと医療の連携，認知症ケアや権利擁護業務の専門的対応支援を円滑に行う人材を養成する」とした。研修の評価は，各単元のリアクションペーパー，研修全体のカリキュラム評価，受講者に対するインタビューを用いて行った。

■結果と考察

リアクションペーパーによる評価は各単元とも 1～5 点までの 5 段階評価でおおむね 4 点以上の平均点であった。（表参照）カリキュラム評価の 5 段階評価の平均点は，目的の適切性についての 2 項目は，ともに平均点 3.4 点であり，目的の内容と一致については，「医療連携を円滑化できる人材の育成」については，3.0 点，「権利擁護などの専門対応を円滑に行う人材の育成」については 3.2 点であった。また，事前課題で出した「自己課題の克服に役立ったか」という設問が 2.4 点であった。目的の適切性や自己課題の克服に役立ったかという設問の結果及びインタビューの結果から，今後は，医療連携に焦点を当てたカリキュラムのほかに，地域連携により焦点を当てたカリキュラムの作成が必要であることが示唆された。

表　各単元のリアクションペーパーによる評価（平均）

単元名	①目的は明示されたか	②理解しやすい構成だったか	③教材の選択・提示は適切だったか	④講師の話し方は適切だったか	①内容は理解できたか	②内容は期待していた通りか	③満足できる内容か	④活用できる内容だったか
研修の位置づけと連携担当者の役割	4.4	4.1	4.2	4.0	4.5	4.2	4.2	4.3
自己課題の明確化	4.4	4.4	4.4	4.2	4.4	4.4	4.0	4.1
認知症の最新情報ー薬物や若年性認知症を中心にー	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.7	4.2	4.3
認知症の予防の正しい理解	4.2	4.2	3.9	4.1	4.5	3.8	3.8	4.3
地域における高齢者虐待と権利擁護	4.1	4.1	3.4	3.4	2.9	3.8	3.6	3.6
認知症介護連携に向けた事例演習　導入編	4.6	4.7	4.5	4.8	4.8	4.1	4.3	4.2
認知症介護における地域医療の実際	3.9	3.9	4.1	3.8	4.4	4.1	3.9	4.1
コミュニティソーシャルワーク論	3.6	3.6	3.5	3.4	4.0	3.6	3.0	3.2
連携のためのルールとツール	3.7	3.7	3.8	3.6	4.1	3.8	2.9	3.3
認知症介護連携に向けた事例演習　展開編	4.1	4.1	4.1	3.9	4.4	4.1	3.8	3.8

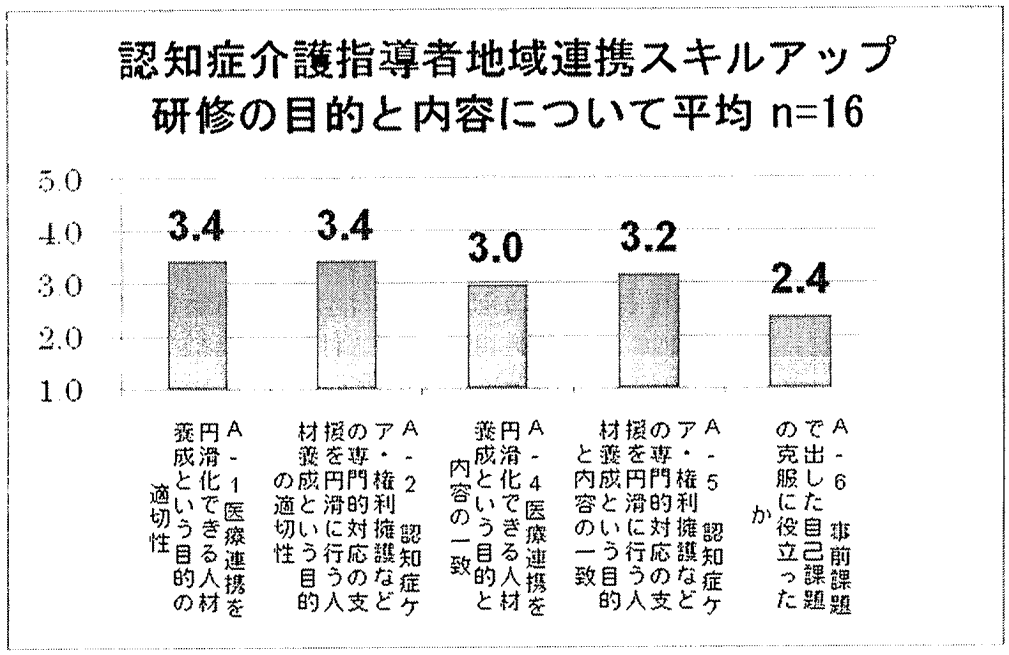


図　認知症介護指導者地域連携スキルアップ研修カリキュラム評価結果

7）ユニットケアの推進に関する調査研究事業

秋葉　都子（認知症介護研究・研修東京センター）
荻野　雅宏（認知症介護研究・研修東京センター）
五十棲恒夫（特別養護老人ホーム　天神の杜）
荻野　光彦（特別養護老人ホーム　真寿園）
小川　裕美（特別養護老人ホーム　杜の風）
安田　弓子（特別養護老人ホーム　花友にしこうじ）
千葉　芳歩（特別養護老人ホーム　一重の里）
菊地奈津子（特別養護老人ホーム　おながわ）
平山　政浩（特別養護老人ホーム　真寿園）
宮本　憲男（介護老人保健施設きのこ老人保健施設）

■目的

ユニットケア研修は平成 15 年度に始まり，本年度で 6 年目を迎えた。ユニットケアは，在宅に近い環境で利用者一人ひとりの個性や生活のリズムに沿い，また，他人との人間関係を築きながら日常生活を営むことを可能にする新しい個別ケアの手法として，今後も施設での一層の普及が求められているところである。

本事業では，研修開始から 5 年が経過したことを踏まえて，ユニットケア研修検証委員会を立ち上げ，ユニットケア研修の実態を整理し，受講者を取り巻く環境の変化，研修成果の実践状況等を受講者へのアンケートをもとに整理した。加えて，研修を支える指導者のフォローアップニーズも浮き彫りにし，3 つの研修が有機的に機能するような今後の研修のあり方を検討することを目的としている。

■方法

分析の視点を，以下の点に絞り実施した。

・どんな受講生が何を望み，施設の現状はどんな状況か
・今までの研修成果はユニットケア運営に活かされているか
・上記の 2 つのニーズに沿う研修の運営方法は何か

（分析方法）

・ユニットケア研修検証委員会で課題を抽出
・施設管理者研修・ユニットリーダー研修・指導者養成研修の実態把握（委員会と第 3 者等を含むメンバー）
・施設管理者研修・ユニットリーダー研修修了者へのアンケート調査で受講者を取り巻く環境の変化，研修の成果の確認とその要因の把握
・指導者養成研修修了者へのアンケート調査でフォローアップニーズの把握

■結果

1　研修の実態調査

・事前課題では，受講動機と役割を明確にし，受講の意欲を高める
・講義研修では，自ら考えることができる参加型研修にする
・事後課題の結果報告体制をシステムで一本化し，情報共有の機会を増やす

2　受講者を取り巻く環境の変化

・施設管理者研修の受講者は２代目が増え，管理者の入れ替わりが生じており，創設者の理念や運営の意図を持ちえている人が少なくなってきた

・ユニットリーダー研修では，1 施設から 3 人目以降の受講者が 3 分の 2 を占め，ユニットケア運営には各ユニットのリーダーの受講を推進している施設が多くなっていた

3　研修の成果の実践状況とその要因

・運営計画書の実践状況は，「実践できている」「取り組み中（取り組みに向けて準備している）」を合わせると，施設管理者では 8 割，ユニットリーダーでは 7 割が実践に向けて前向きに取り組んでいた

・個別ケアの基本に関する実践状況では，固定配置，ユニット毎のシフト作成，理念の浸透などの項目では，研修前から実施しているという回答が施設管理者，ユニットリーダー共に 4 割を超えていた。

・24H シートの活用に関する項目では，研修前から取り組んでいる割合は 1 割強，研修後に実践を始めている割合が 5 割以上であった。その促進要因として，「研修を受けることで具体的な取り組み方法がわかった」とする割合が施設管理者では 48%，ユニットリーダーでは 55%であり，「研修を受けたリーダーの協力が得られた」とする割合が管理者では 35%，ユニットリーダーでは 28%と高い割合であった。

・研修で学んだことを実践したいという意欲は高いが，実践がうまく進まない理由として，「人手が足りない」をあげる割合が高い。また，「ユニットリーダーや職員の理解が得られない」「利用者の状態像が合わない」という点についても高い割合を示していた。

4　指導者のフォローアップニーズの把握

・指導者が質を担保しながら活動を続けていくための手段として，各地域での定期的な勉強会の開催を必要としている割合が 85%であり，その頻度は年 2 回とする割合が 69%であった。活動するために当事者団体の組織化を必要とする割合が 92%であり，ブロック毎に代表を決めその代表が全国の組織を形成すればよいという意見が多かった。

■研究の成果

以上を踏まえて，研修開始当時はユニットケアとういうものの普及に重点を置いた内容であったが，今では 1 施設から複数人の受講者が誕生していることより，よりユニットケアの運営に役立つ具体的な内容が求められ，それに伴い，事前課題の有効活用，教材資料の充実，指導者のフォローアップ体制の構築等を整理し，そして，自らユニットケア運営を考えられる受講修了者にしていくことが目標とされた。

8）認知症地域ケア体制の関係者共同研修のあり方検討会

池田　武俊（大牟田市保健福祉部）
勝田登志子（認知症の人と家族の会）
新田　國夫（新田クリニック）
藤野けい子（品川区福祉高齢事業部）
森上　淑美（日本介護専門員協会）
山田　圭子（前橋市地域包括支援センター）
渡邉　高行（群馬県地域密着型サービス連絡協議会）
永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター）

■背景と目的

地域包括支援センターについては，認知症専門医療機関や権利擁護の専門家，若年性認知症者の支援にかかわる機関との連携，地域における専門的な認知症ケアの助言を通じた総合的な認知症地域ケア体制の構築を行うための機能の充実が必要と考えられる。

このため，地域包括支援センターにおいてこのような業務を担う人材の要件，人材育成に必要な研修のあり方を明らかにする。

また，地域包括支援センターを中心とする認知症地域ケア体制において，認知症支援に関わる多様な関係者が円滑かつ有機的に協働を実践していくための共同研修のあり方を明らかにする。

■方法

国内ですでにとりくまれている多資源共同の研修の内容，実施状況，成果と課題に関する資料の収集とヒヤリング調査を行い，今後，認知症地域ケア体制を共働しながら築いていくために必要な共通の知識，技術等を得るための研修のあり方の検討を行った。

■結果

全国各地で多様な実施主体による共同研修が開催されるようになってきている。研修主体がどのような立場であっても，開催準備段階から地域の多資源共働の推進を意図したアプローチを行うことで，研修自体が地域資源のネットワーク化やその後の共働の重要な契機になることが明らかになった。それら先行例の知見を踏まえて，今後，全国の自治体や地域で共同研修を効果的かつ継続的に開催していくための指針をまとめた。また，地域特性等に応じて共同研修ができるだけ速やかに普及していくことを推進するために，参考例や関連資料を集約した。

9）認知症地域ケア体制構築を行う人材育成のあり方等検討委員会

佐藤　信人（武蔵野大学）
八森　　淳（社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所 地域医療研修センター）
増田　政美（社会福祉法人　川崎市社会福祉協議会　大師中央地域包括支援センター）
佐々木勝則（社会福祉法人桜井の里福祉会　特別養護老人ホーム桜井の里）
池田惠利子（いけだ後見支援ネット）
畦元智惠子（杉並区介護予防課）
内田　孝子（横浜市葛が谷地域ケアプラザ　地域包括支援センター）
阿部　哲也（認知症介護研究・研修仙台センター）
藤井　滋樹（認知症介護研究・研修大府センター）
今井　幸充（認知症介護研究・研修東京センター）

■背景と目的

これまでのわが国の認知症対策は，認知症に対する医療体制の不足（専門医を提供する医師の不足，診断手法や治療法の未確立）もあり，認知機能の障害に伴って日常生活に支障をきたした人に対する介護サービスの提供を中心とした対応が行われてきた。しかしながら，認知症の早期に確定診断が的確に行われず，その後の医療と介護の連携が不十分であったために，適切な治療や介護の提供が行われなかったという事例もある。本事業は，地域包括支援センターにおいて認知症疾患医療センターと連携する連携担当者を育成していくための人材の要件，人材育成に必要な研修のあり方を明らかにすることを目的としている。

■方法

介護・医療従事者，地域包括支援センター職員，認知症介護指導者，行政担当者，認知症介護に関する学識経験者等からなる委員会を設置し，5 回にわたり地域包括支援センターにおいて認知症疾患医療センターと連携する連携担当者を育成する研修カリキュラムのあり方を検討した。

■結果

委員会による検討の結果，連携担当者の役割として①認知症者に関する地域医療との地域包括支援センターとの連携支援，②所轄の地域包括支援センター等に対して認知症介護に関するコンサルテーションを行う，③認知症になっても安心して暮らせる街づくりのための活動を行うという役割の必要性が明らかになった。また，研修対象者は，①認知症介護指導者または，それに準じる者。②地域包括支援センターに勤務している者，または，地域包括支援センターに勤務する予定のある者であることの必要性が明らかにされた。以上を踏まえ，表 1 のようなカリキュラム案が開発された。

表１　連携担当者研修（仮称）単元名と時間数

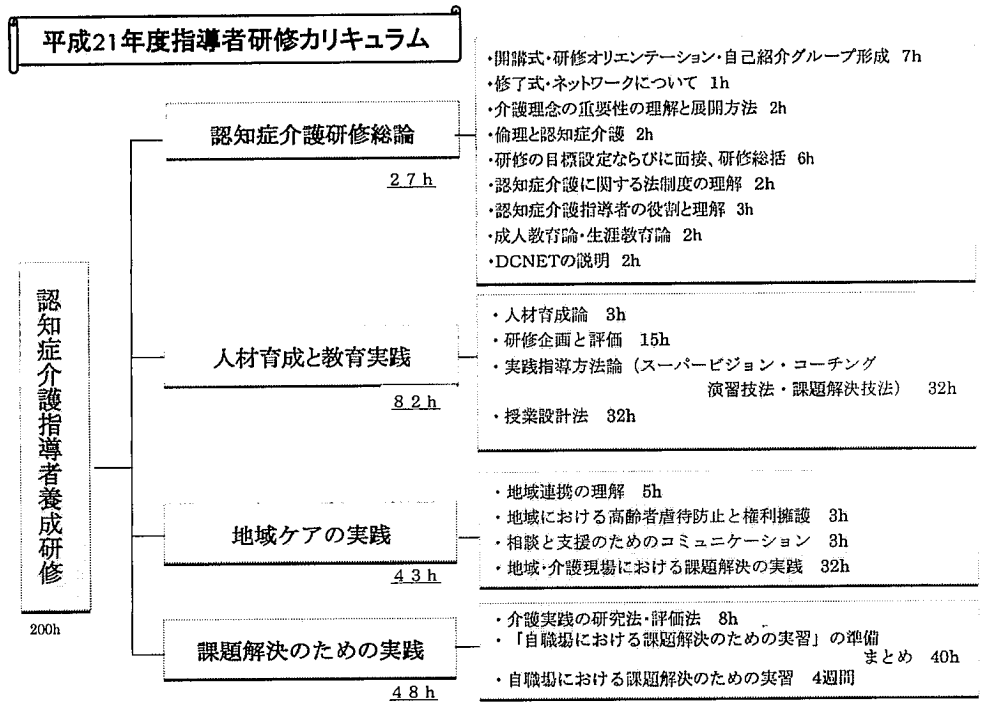
教科・単元名	授業形態	時間数
『認知症ケアの理念』	講義	60 分
『認知症の人の尊厳と意思決定支援のための倫理的判断』	講義・演習	290 分
『情報が持つ意味を踏まえて認知症者本人と資源の強みを生かす』	講義・演習	410 分
『研修の位置づけと連携担当者の役割』	講義	90 分
『認知症介護における地域医療の実際』	講義	180 分
『自己課題の明確化』	演習	70 分
『地域における高齢者虐待と権利擁護』	講義・演習	160 分
『若年性認知症者を支える社会制度』	講義	60 分
『認知症者を支える住民参加の街づくり』	演習	180 分
『地域連携のためのルールとツール開発』	演習	360 分

II
研修活動

1．研修活動の概要

2008年度から認知症介護指導者養成研修（以下，指導者研修）がこれまでの国庫財源から一般財源にかわり，受講生の減少が懸念されたが，年間受講者は41名で，フォローアップ研修も23名の参加があった。

指導者研修ならびにフォローアップ研修以外の本年度の主な事業として，2009年度から実施される新カリキュラムを決定した。その骨子は，①認知症介護研修総論，②人材育成と教育実践，③地域ケアの実践，④課題解決のための実践，であり，これまでのカリキュラムをスリム化し指導者研修の達成目標に地域ケアを含めた地域での認知症介護指導者としてのスキルを養成すること加えた（図1）。



その他の事業に，指導者研修を修了した認知症介護指導者を中心としてそのネットワークのための会「being」が創設された。6月には東京センターで「第1回指導者ネットワークbeing」の立ち上げ総会を開催し，また「being」のニュースレターが発刊された。

また6月に発表された「認知症の医療と生活の質を高めに緊急プロジェクト」で提案された「認知症連携担当者」の創設に関し，その役割を担う者の養成研修プログラムの開発を当センターで行った。

2009年4月より介護報酬単価に認知症専門ケア加算が新設され，その要件に認知症介護指導者ならびにリーダ研修修了者が加算の対象となった。これに伴い指導者研修受講者の推薦者がこれまで都道府県ならびに政令市に限られていたのが，2009年度からは事業者推薦でも応募も認められたために，指導者研修受講応募者の大幅な増加が見込まれる。

2009年度は，認知症実践研修ならびに指導者研修の制度改定に伴い，その社会的ニーズも変化することが予測できる。東京センター研修部では，認知症ケアに関する研修体系やそのカリキュラム内容について常に先駆的な対応を強いられており，それに答えるべく体制強化を進めている。

（今井 幸充）

2．認知症介護指導者養成研修

平成20年度の認知症介護指導者研修は開始から8年目を向かえ，第1回に10名，第2回に12名，第3回に19名が修了し，合計41名の認知症介護指導者を各地に送り出すことができた。したがってこの8年間に425人の認知症介護指導者が認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー研修）の企画・運営や地域での認知症介護の推進役として活動していることになる。

平成20年度の各回の修了者一覧を表1に挙げた。平成20年度の第1回から第3回目での研修で講義・演習を担当された外来講師は表2に示した。また平成20年度第1回の研修カリキュラムを表3に示した。

表1　平成20年度認知症介護指導者養成研修修了者一覧

	第1回（22期）	第2回（23期）	第3回（24期）
茨城県	仁平明美		山本義則
栃木県		半田英男	青田賢之 齊藤和孝
群馬県	河村俊一		鳥越和哉 芝﨑智之
埼玉県	原　由美子		岩本かおり
千葉県		大槻泰生 髙山謙	正田貴之
東京都	尾林和子 丸山寿量	佐藤利弘	村松伸晃
神奈川県		須藤信宏	小澤ミサヲ
新潟県			多田　良
千葉市	高橋孝子		
横浜市		後藤京子 武藤とみ子	菊地昭市
川崎市	山宮順子	藤田扶美子	髙原裕司
さいたま市			
新潟市			
福岡県		大野哲也	西田キヨミ 金子由加利
佐賀県			早田隆子
長崎県		田川千秋	井口三恵子 田中大輔
熊本県			
大分県	宮﨑亜希	村上久子	
宮崎県	柳田梨奈		
鹿児島県			積　竜太
沖縄県	金城　満	島袋　尚	
北九州市			野口恵美
福岡市			

表２　平成20年度認知症介護指導者養成研修担当講師一覧

氏名	所　属	担当回	担当講義名
内　藤　佳津雄	日本大学　文理学部心理学研究室	①②③	認知症介護における人材育成の基本的考え方
永　嶋　丈　晴	社会福祉法人　穏寿会 特別養護老人ホーム　裕和園	①	認知症介護の理念と方向性の共有
平　井　恵　美	株式会社　横浜福祉研究所	①	認知症介護の理念と方向性の共有
井　戸　和　宏	株式会社　横浜福祉研究所　認知症高齢者研究室・付属グループホーム夢美	②	認知症介護の理念と方向性の共有
島　田　幸　治	社会福祉法人　植竹会 特別養護老人ホーム　ゆたか	②	認知症介護の理念と方向性の共有
新　堀　朝　史	社会福祉法人　花園公益会　特別養護老人ホーム　フラワーヴィラ	③	認知症介護の理念と方向性の共有
成　田　則　子	社会福祉法人　ふじ寿か会 グループホーム　そまやまの里	③	認知症介護の理念と方向性の共有
西　原　亜矢子	放送大学	①②③	おとなの学びが実るために
佐　藤　信　人	①武蔵野大学　現代社会学部	①②③	チームアプローチ＆リーダーシップ演習
	③武蔵野大学　人間関係学部	①②③	法制度とケア
阿　部　芳　久	東北福祉大学　総合福祉学部	①②③	認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 －効果的な授業の創造・展開・評価・修正－
宮　崎　淳　子	医療法人社団　椿森整形外科	①②③	高齢者虐待防止法の考え方と支援の実際
大　谷　佳　子	昭和大学　保健医療学部	①②③	OJT における指導の実際
毛　呂　征　也	株式会社　いずみ グループホーム　はすぬま	①	認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 －模擬演習－
		②	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
		②	認知症介護における研修カリキュラムの評価
林　　匡　子	神奈川県社会福祉事業団　横須賀老人ホーム	①	認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 －模擬演習－
加　門　大　亮	社会福祉法人麗寿会　ふれあいの森通所介護	②	認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 －模擬演習－
青　木　恵　子	社会福祉法人くすの木会　グループホームいずみ	②	認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 －模擬演習－
細　谷　正　宏	医療法人　湘寿会，他	③	認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 －模擬演習－
小　澤　久　雄	社会福祉法人　翠燿会　高齢者複合ケア施設　グリーンヒル八千代台	③	認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 －模擬演習－
小　田　紀　子	医療法人　友愛会　田川療養所	①	研究授業
松　田　　昇	社会福祉法人　育生会　よつば苑	②	研究授業
戸　崎　隆　洋	社会福祉法人　清風会 金隈老人保健施設　フラワーハウス博多	③	研究授業
扇　田　孝　行	株式会社　ヴィラ　グループホームヴィラ	①	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
		①	認知症介護における研修カリキュラムの評価
荒　牧　雅　則	社会福祉法人　京福会 特別養護老人ホーム　寿山荘	①	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
		①	認知症介護における研修カリキュラムの評価
石　橋　さつき	社会福祉法人　翠清福祉会　介護老人保健施設　ナーシングホームかたくり	②	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
		②	認知症介護における研修カリキュラムの評価
中　村　克　也	社会福祉法人　神奈川県社会福祉事業団 横須賀ホーム	③	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
		③	認知症介護における研修カリキュラムの評価
井　上　義　臣	医療法人　活人会　高齢者グループホーム　横浜ゆうゆう	③	認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
		③	認知症介護における研修カリキュラムの評価
秋　葉　都　子	認知症介護研究・研修東京センター	①②	管理者としてのメンタルヘルスとリスクマネジメント
広　瀬　幸　子	医療法人社団　青洲会　神立病院	③	管理者としてのメンタルヘルスとリスクマネジメント
井　上　信太郎	有限会社　心のひろば	①	職場研修成果報告・討議
仁　平　明　美	医療法人社団　協栄会　グループホームしゃらく	②	職場研修成果報告・討議
武　藤　とみ子	社会福祉法人　みどりの風 介護老人保健施設　みどりの杜	③	職場研修成果報告・討議

表３　平成20年度第１回認知症介護指導者養成研修カリキュラム

日程	プログラム
5月12日 (月)	Ⅰ　オリエンテーション 1)　開講式 2)　研修オリエンテーション Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 1)　認知症介護に活かすＩＣＦの視点　ー理念の実現のためにー
5月13日 (火)	Ⅰ　オリエンテーション 3)　研修生の自己紹介 Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 2)　認知症介護の理念の方向性と共有
5月14日 (水)	Ⅳ　人材育成企画方法の実践的理解 1)　認知症介護における人材育成の基本的考え方 Ⅱ　認知症介護研修総論 1)　認知症介護実践の振り返り　1　ー理念に基づいた課題抽出ー 2)　認知症介護実践の振り返り　2　ー課題解決に向けた論理的思考・批判的思考ー Ⅰ　オリエンテーション 4)　図書オリエンテーション
5月15日 (木)	Ⅱ　認知症介護研修総論 3)　おとなの学びが実るために 2)　認知症介護実践の振り返り　2　ー課題解決に向けた論理的思考・批判的思考ー
5月16日 (金)	Ⅱ　認知症介護研修総論 4)　法制度とケア 5)　実践研修と指導者の役割の理解 Ⅴ　教育指導方法の実践的理解 1)　認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 ー効果的な授業の創造・展開・評価・修正ー
5月19日 (月)	Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 3)　チームアプローチ＆リーダーシップ演習 Ⅱ　認知症介護研修総論 2)　認知症介護実践の振り返り　2　ー課題解決に向けた論理的思考・批判的思考ー Ⅵ　実践的技能を養うための演習・実習 1)　実習オリエンテーション①
5月20日 (火)	Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 4)　生活の中での意思決定支援を振り返る 5)　研修目標の設定ならびに面接
5月21日 (水)	Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 6)　ケアマネジメントの理論と実際 Ⅴ　教育指導方法の実践的理解 2)　演習企画書の作成について 3)　演習企画書の作成
5月22日 (木)	Ⅴ　教育指導方法の実践的理解 3)　演習企画書の作成
5月23日 (金)	Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 7)　高齢者虐待防止法の考え方と支援の実際 Ⅴ　教育指導方法の実践的理解 3)　演習企画書の作成
5月26日 (月)	Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 8)　地域包括ケアを指導者として展開するための方策 Ⅴ　教育指導方法の実践的理解 3)　演習企画書の作成
5月27日 (火)	Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 9)　OJT における指導の実際

日程	プログラム
5月28日 (水)	V　教育指導方法の実践的理解 4)　認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 ー模擬演習ー（ただしマイクロティーチング） 5)　認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 ー演習企画書の評価・修正ー
5月29日 (木)	III　認知症介護研修の体系的理解 10)　研究授業 IV　人材育成企画方法の実践的理解 2)　認知症介護における研修カリキュラム構築の考え方 3)　認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
5月30日 (金)	IV　人材育成企画方法の実践的理解 3)　認知症介護における研修カリキュラム構築の実際
6月2日 (月)	IV　人材育成企画方法の実践的理解 3)　認知症介護における研修カリキュラム構築の実際 4)　認知症介護における研修カリキュラムの評価 III　認知症介護研修の体系的理解 11)　管理者としてのメンタルヘルスとリスクマネジメント IV　人材育成企画方法の実践的理解 4)　認知症介護における研修カリキュラムの評価
6月3日 (火)	VI　実践的技能を養うための演習・実習 2)　実習オリエンテーション② III　認知症介護研修の体系的理解 12)　目標の達成度の確認と修正①
6月4日 (水)	VI　実践的技能を養うための演習・実習 3)　施設実習
6月5日 (木)	VI　実践的技能を養うための演習・実習 3)　施設実習
6月6日 (金)	VI　実践的技能を養うための演習・実習 4)　施設理解と自己の課題 5)　施設実習 2 日間のまとめ
6月9日 (月)	VI　実践的技能を養うための演習・実習 3)　施設実習
6月10日 (火)	VI　実践的技能を養うための演習・実習 6)　施設理解と提案内容の検討 3)　施設実習
6月11日 (水)	VI　実践的技能を養うための演習・実習 7)　実習における学びのまとめ 8)　実習におけるまとめ発表会/実習の自己評価 III　認知症介護研修の体系的理解 13)　目標の達成度の確認と修正② II　認知症介護研修総論 6)　D C net の説明
6月12日 (木)	V　教育指導方法の実践的理解 6)　認知症介護実践の研究方法 7)　職場研修の企画立案方法について VI　実践的技能を養うための演習・実習 9)　職場研修の企画・立案
6月13日 (金)	III　認知症介護研修の体系的理解 14)　これまでの研修の振り返り VI　実践的技能を養うための演習・実習 9)　職場研修の企画・立案 10)　職場研修における自己の課題の発表
	4 週間の職場研修 6 月 14 日～7 月 13 日

日程	プログラム
7月14日 (月)	Ⅰ　オリエンテーション 5)　後期研修オリエンテーション Ⅴ　教育指導方法の実践的理解 8)　職場研修の成果のまとめ方について Ⅵ　実践的技能を養うための演習・実習 11)　職場研修報告会に向けてのまとめ
7月15日 (火)	Ⅵ　実践的技能を養うための演習・実習 12)　職場研修成果報告・討議
7月16日 (水)	Ⅵ　実践的技能を養うための演習・実習 12)　職場研修成果報告・討議 13)　職場研修成果報告書の作成
7月17日 (木)	Ⅴ　教育指導方法の実践的理解 9)　職場研修の指導のあり方 Ⅲ　認知症介護研修の体系的理解 15)　目標の達成度の確認と修正③
7月18日 (金)	Ⅰ　オリエンテーション 6)　研修修了後のセンターとのネットワーキングについて 7)　振り返りとこれから　ー自己評価と研修評価ー 8)　修了式

1）平成20年度カリキュラム概要　―新たな単元を中心に―

平成18年度に3センターの指導者養成研修カリキュラムの見直しを行い，平成19年度より3センターの共通性を高めた新標準的カリキュラムで研修を行ってきたが，平成20年度についても同様のカリキュラムにより研修を実施した。

■研修の骨子について

従来の骨子を変更し，Ⅰオリエンテーション，Ⅱ認知症介護研修総論，Ⅲ認知症介護研修の体系的理解，Ⅳ人材育成企画方法の実践的理解，Ⅴ教育指導方法の実践的理解，Ⅵ実践的技能を養うための演習・実習の6項目を研修の新たな骨子とした。

■認知症介護研修総論

従来どおり，武蔵野大学の佐藤信人教授による「法制度とケア」及び，静岡福祉大学の西原亜矢子氏による「大人の学びが実るために」等，研修及び人材育成に関する総論的な単元を実施した。

■認知症介護研修の体系的理解

研修生が指導者研修における研修目標を達成するための自己の課題を明らかにしながら研修受講を進められることをねらい，「研修目標の設定ならびに面接」の単元を研修中4回実施した。

■人材育成企画方法の実践的理解

研修のカリキュラム作成能力の育成をねらう本教科では，従来と同様にグループワークにより実践研修のカリキュラム構築を行い，研修企画者としての能力養成を図った。

■教育指導方法の実践的理解

授業の企画力と企画した授業の展開能力の養成をねらう本教科では，従来と同様に実際に演習を企画し，それを模擬的に実演するという方法で能力養成を図った。

■実践的技能を養うための演習・実習

昨年度同様，実習施設に「実習施設における認知症介護の課題」の提示を依頼し，研修生がチームで，その課題を解決するための具体的なアドバイスを行う実習とした。実習施設への滞在期間を3.5日間から4日間とした。

2）2008年度のカリキュラムの評価

2008年度の認知症介護指導者養成研修のカリキュラム評価について述べる。

2008年度の第1回から第3回までの研修生全員が研修修了時にカリキュラム評価を行った。評価は，「企画能力育成」「指導能力育成」「スーパーバイズ能力養成」「カリキュラム構成」「カリキュラム順序性」「時間配分」の項目について研修生が 5 件法によって評価するという方法を用い，その平均点を算出した。その結果，「企画能力育成」で 4.8 点，「指導能力育成」で 4.7 点など，すべての項目で平均点 4.0 点以上の評価が示された。カリキュラム評価の結果については表 4 に示す。

表４　平成20年度認知症介護指導者養成研修カリキュラム評価（１～３回分）

n=41

	企画能力養成	指導能力養成	スーパーバイザー養成	カリキュラム構成	カリキュラム順序性	時間配分
平均値	4.8	4.7	4.5	4.5	4.3	4.0
標準偏差	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.8
最小値	3	3	3	3	3	2
最大値	5	5	5	5	5	5

3）認知症介護指導者フォローアップ研修

認知症介護指導者フォローアップ研修は 2004 年度の本格実施から 5 年目を迎えた。フォローアップ研修第 1 回では 10 名が，そして第 2 回目では 13 名が受講した。すなわち，合計 23 名の指導者がフォローアップ研修に参加したことになる。受講者一覧を表 5 に示した。

表５　平成20年度認知症介護指導者フォローアップ研修受講者一覧

平成 20 年度第 1 回		
県名	氏　名	修了年度及び修了回
栃　木	網　野　倫　子	H17 ②
東　京	市　川　裕　太	H17 ③
佐　賀	石　村　鈴　子	H14 ②
佐　賀	岸　田　寿　弘	H15 ③
長　崎	森　　俊　輔	H17 ③
熊　本	赤　星　文　恵	H17 ③
大　分	甲　斐　康　子	H17 ②
沖　縄	山　内　久　也	H18 ③
横浜市	井　戸　和　宏	H17 ②
福岡市	戸　崎　隆　洋	H17 ③

平成 20 年度第 2 回		
県名	氏　名	修了年度及び修了回
茨　城	平　田　和　子	H15 ③
栃　木	荒　牧　雅　規	H18 ②
神奈川	福　島　廣　子	H15 ①
新　潟	遠　藤　真　一	H16 ③
福　岡	青　柳　敏　雄	H16 ②
福　岡	池　上　三千代	H18 ②
熊　本	吉　本　正　文	H17 ②
大　分	尾　崎　正　史	H13 ①
鹿児島	立　薗　孝　子	H15 ①
沖　縄	當　山　房　子	H19 ②
沖　縄	金　城　一　二	H17 ③
横浜市	水　野　陽　子	H16 ②
北九州市	岡　田　智　子	H18 ②

1. フォローアップ研修カリキュラム

平成 20 年度第 1 回および第 2 回の認知症介護指導者フォローアップ研修のカリキュラムは，表 6 に示したとおりである。このカリキュラムは厚生労働省の標準的カリキュラムすなわち，

・認知症の人の望む暮らしの継続を徹底的に支援する実践者の育成をねらいとしている新標準的カリキュラムを展開していくための最新知識（主として地域包括ケアを指導者として展開するための方策）
・認知症介護における人材育成のための方法
・認知症介護における課題解決の具体的方法（主としてターミナルケア）

・認知症介護研修における効果的な授業の企画･運営のあり方
・研修の教育評価
に沿ったものであり，（　）内は特に東京センターのフォローアップ研修で重要視した内容である。

表６　平成20年度認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム

日程	講 義 名	担 当
月曜日（研修１日目）	開講式　・　オリエンテーション（７５分） <ねらい>認知症介護指導者フォローアップ研修の位置づけ，研修目標を理解し，研修生が各自の目的（達成課題）を明確にする。	東京センター 諏訪さゆり 中村考一
	みんなで育む新しい認知症介護 -認知症介護指導者の活動から考える-（１２０分） <ねらい>認知症介護指導者が現場での認知症介護実践や認知症介護実践研修等の中で捉えた現在の認知症介護の課題を研修生・センター・厚労省で共有する。	東京センター 今井幸充 諏訪さゆり
	認知症介護における人材育成（２１０分） <ねらい>認知症介護において人材育成がなぜ重要であるかを明確にできる。また，各地域（都道府県市）や職場において人材育成を展開していくための要件，具体的方法（OffJT としての研修カリキュラムの構築プロセスや演習の展開方法，および OJT の方法などを含む）およびその特徴を理解し，効果的な人材育成のあり方について考察できる。 １日のレビュー	日本大学　内藤佳津雄 事例提供：認知症介護指導者 東京センター 諏訪さゆり
火曜日（研修２日目）	研究授業　：認知症介護における効果的な授業開発１（２００分） <ねらい>認知症介護実践研修で展開されている授業（講義・演習）の模擬的実演（模擬授業）および討議を通して，認知症介護における効果的な授業のあり方を考察することができる。さらに認知症介護指導者が企画・展開している授業をより効果的なものにするために，今後どのように改善・工夫することができるかを具体的に検討することができる。	研修生 東京センター 中村考一
	研究授業　：認知症介護における効果的な授業開発２（２１０分） <ねらい>認知症介護実践研修で展開されている授業（講義・演習）の模擬的実演（模擬授業）および討議を通して，認知症介護における効果的な授業のあり方を考察することができる。さらに認知症介護指導者が企画・展開している授業をより効果的なものにするために，今後どのように改善・工夫することができるかを具体的に検討することができる。 １日のレビュー	研修生 東京センター 中村考一
水曜日（研修３日目）	認知症介護における倫理（８０分） <ねらい>認知症介護指導者として実践研修や認知症介護実践を行う上で必要な認知症介護の倫理を理解する。	東京センター 諏訪さゆり
	高齢者虐待防止法の考え方と支援の実際（８０分） <ねらい>高齢者虐待に関する現状と虐待防止法の考え方を理解し，具体的な支援のあり方と認知症介護指導者に求められる役割を考察する。	認知症介護研究研修 仙台センター 吉川悠貴
	認知症の人のターミナルケアを考える（２１０分） <ねらい>理念を踏まえて，認知症の人のターミナルケアを確実に実践していくための具体的方策を考察できる。 １日のレビュー	さくばらホーム 櫻井紀子
木曜日（研修４日目）	地域包括ケアを指導者として展開するための方策　ー実践者の報告ー <ねらい>自施設・事業所における認知症の人と地域のかかわりを振り返り，自分自身が認知症介護実践者として地域と連帯をとって認知症の人を支援するときに何が必要か，自分自身の課題を明確化する。また，認知症介護指導者として地域ケアの質の向上に向けた自己の活動の可能性を考察する。	東京センター 永田久美子 ケアマネジメント推進室
	研究授業　：認知症介護における効果的な授業開発３（２１０分） <ねらい>　認知症介護実践研修で展開されている授業（講義・演習）の模擬的実演（模擬授業）および討　議を通して，認知症介護における効果的な授業のあり方を考察することができる。さらに認知症介護指導者が企画・展開している授業をより効果的なものにするために，今後どのように改善・工夫することができるかを具体的に検討することができる。 １日のレビュー	研修生 東京センター 中村考一

日程	講義名	担当
金曜日（研修5日目）	研究授業　：認知症介護における効果的な授業開発４（２００分） <ねらい>　認知症介護実践研修で展開されている授業（講義・演習）の模擬的実演（模擬授業）および討議を通して，認知症介護における効果的な授業のあり方を考察することができる。さらに認知症介護指導者が企画・展開している授業をより効果的なものにするために，今後どのように改善・工夫することができるかを具体的に検討することができる。	研修生 東京センター 中村考一
	フォローアップ研修のまとめと評価（９０分） <ねらい>認知症介護指導者養成研修の自己の気づき，学び，課題設定とその後の取り組みを具体的に整理する。さらに認知症介護指導者フォローアップ研修における自己の気づきと学び，今後の課題を明らかにし，認知症介護指導者として具体的にどのような役割や活動を今後行っていくのかについて展望を持つことができる。 １日のレビュー 修了式	東京センター 諏訪さゆり 中村考一

2. 平成20年度フォローアップ研修カリキュラム評価

フォローアップ研修においても，カリキュラム評価を行った。結果を表7に示す。評価項目は，大項目として「目標の適切さ」「目標と内容の一致」「方針の適切さ」「方針と内容の一致」「カリキュラム構成」がありその下に，3～5 項目の下位項目が設定された。それら合計20項目について，いずれも平均点4.0点以上を示しており，質の高いカリキュラムであったことが明らかになった。

表７　平成20年度フォローアップ研修カリキュラム評価結果

n=23

評価項目			平均値	標準偏差	最小値	最大値
目標の適切さ	A-1	最新知見の理解	4.6	0.5	4	5
	A-2	人材育成能力養成	4.5	0.7	3	5
	A-3	課題解決能力養成	4.3	0.8	3	5
	A-4	授業企画運営能力養成	4.6	0.5	4	5
	A-5	自己評価能力養成	4.7	0.5	4	5
目標と内容の一致	B-1	A-1が達成できる内容であった	4.0	0.7	3	5
	B-2	A-2が達成できる内容であった	4.4	0.7	3	5
	B-3	A-3が達成できる内容であった	4.0	0.7	3	5
	B-4	A-4が達成できる内容であった	4.3	0.8	3	5
	B-5	A-5が達成できる内容であった	4.5	0.7	3	5
方針の適切さ	C-1	研修生から出た問題意識を大切にする	4.7	0.5	4	5
	C-2	実践研修について情報・共有検討しあう	4.8	0.4	4	5
	C-3	現場の実践について情報・共有検討しあう	4.5	0.7	3	5
	C-4	教育・指導力を高める	4.6	0.5	4	5
方針と内容の一致	D-1	C-1を念頭において内容を設定していた	4.7	0.5	4	5
	D-2	C-2を念頭において内容を設定していた	4.6	0.5	4	5
	D-3	C-3を念頭において内容を設定していた	4.4	0.5	4	5
	D-4	C-4を念頭において内容を設定していた	4.7	0.5	4	5
カリキュラム構成	E-1	カリキュラム構成	4.1	1.0	3	5
	E-2	カリキュラム順序性	4.2	0.9	3	5
	E-3	時間配分	4.0	1.2	2	5

3．ユニットケア研修事業報告

ユニットケア推進室の2008年度の研修等活動は，厚生労働省委託事業，都道府県委託の3種のユニットケア施設研修，施設ケアを支える他職種のための研修，研修修了生のフォローアップ研修，フォーラム等を行った。

1） 研修等概要

(1) 厚生労働省委託事業

・ユニットリーダー研修実地研修施設選定委員会 → ユニットリーダー研修の実地研修施設の選定を行うために，事務局が当室に委託された。6月と1月の前期・後期に分け，委員会及び選定作業をおこない，応募21施設に対し，6施設の選定をした。これにより実地研修施設総数は52施設となった。

(2) 都道府県委託事業

・施設管理者研修 → 施設管理者を対象とした3日間の座学研修。講義と演習を組み合わせた内容で，ユニットケア運営のための基礎的知識と具体的な方法を学び，研修後に自施設において取組む具体的な運営計画を立てる。

・ユニットリーダー研修 → ユニットリーダーを対象とした3日間の講義研修と5日間の実地研修。講義と演習の座学とユニットケアを先進的に運営している実地研修施設にて，入居者の暮らし方と職員のサポートの仕方を総合的に学ぶ内容となっており，研修後には，管理者と同様自施設において取組む具体的な運営計画を立てる。

＊両研修ともに，受講後1年を目安とし，管理者とリーダーが共同で運営計画書に沿った運営の達成について振り返り，東京センターに報告する

・指導者養成研修 → ユニットリーダー研修講義研修で研修内容を講義や演習を組み合わせて教えていくコーディネーター役や時には講師役になる人たちを養成する。座学3日間の初任者研修と，ユニットリーダー研修で実際コーディネーターと講師役を行う実地研修と，最後にまとめの修了時研修1日から組み立っている。

・情報提供事業 → ユニットケア研修と同時にユニットケアの普及のための啓発事業。2008年度はDVD「入居者の食を支える管理栄養士の役割」の企画制作・発行をした。高齢者施設は暮らしの場であり，暮らしの基本は「食」である。中心的な立場の管理栄養士の一日を追いながら，高齢者施設におけるその役割について，暮らしの視点に沿ってまとめた。

(3) その他研修

ユニットケア運営には各部署の協働が不可欠である。各専門職に求められている役割を遂行できるような人材を育成するために下記の研修を行った。また，実地研修施設としてのケアの質の確認や最新情報の共有する機会となる勉強会，研修修了生に対するフォローアップのための研修や，実践事例を報告するフォーラムを開催した。

(ｱ) 前期ユニットケア研修実地研修受入施設勉強会（2日間）東京センター 106人
(ｲ) 後期ユニットケア研修実地研修受入施設勉強会（2日間）東京センター 102人
(ｳ) 東京センターユニットケア研修等事業計画説明会（1日間）東京センター 42人
(ｴ) 第1回看護職のためのユニットケア研修（2日間） 東京センター 63人
(ｵ) 第1回看護職のためのユニットケア研修（2日間） 東京センター 64人
(ｶ) 食に携わる職員のためのユニットケア研修（2日間）東京センター 75人

(ｷ) 第1回ユニットケア研修フォローアップ研修（2日間）東京センター　63人
(ｸ) 第2回ユニットケア研修フォローアップ研修（2日間）新梅田研修センター　109人
(ｹ) 第3回ユニットケア研修フォローアップ研修（2日間）東京センター　98人
(ｺ) ユニットケア研修フォーラム（1日間）　日本青年館　1,229人

2) 研修実績

(1) 開催数

年度		2003	2004	2005	2006	2007	2008	合計
管理者研修		7回	9回	10回	10回	13回	13回	62回
リーダー研修	回数	9回	23回	30回	25回	39回	33回	159回
	教室数	9教室	23教室	30教室	74教室	123教室	142教室	401教室
指導者研修					2回	2回	2回	6回

(2) 修了者数

年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	合計
管理者研修	208名	269名	294名	298名	463名	443名	1956名
リーダー研修	189名	477名	639名	1796名	2908名	3036名	9026名
指導者研修				28名	30名	21名	79名

(3) 都道府県政令都市別参加者数

県No.	都道府県政令都市	管理者研修	リーダー研修	指導者研修	県No.	都道府県政令都市	管理者研修	リーダー研修	指導者研修	県No.	都道府県政令都市	管理者研修	リーダー研修	指導者研修
1	北海道	12	77	2	23	愛知県	9	128	0	45	宮崎県	3	59	0
2	青森県	1	33	0	24	三重県	11	56	0	46	鹿児島県	3	56	0
3	岩手県	11	56	0	25	滋賀県	4	22	0	47	沖縄県	0	5	0
4	宮城県	11	69	1	26	京都府	1	11	0	48	札幌市	4	19	2
5	秋田県	5	31	0	27	大阪府	17	79	0	49	仙台市	7	39	0
6	山形県	7	28	0	28	兵庫県	12	82	0	50	さいたま市	5	31	0
7	福島県	8	72	0	29	奈良県	2	35	0	51	千葉市	2	9	0
8	茨城県	40	87	0	30	和歌山県	3	32	0	52	川崎市	0	6	0
9	栃木県	18	70	0	31	鳥取県	5	39	0	53	横浜市	7	72	0
10	群馬県	7	74	1	32	島根県	5	21	0	54	名古屋市	8	36	0
11	埼玉県	22	107	1	33	岡山県	4	61	2	55	京都市	2	28	1
12	千葉県	15	85	1	34	広島県	6	58	0	56	大阪市	4	17	0
13	東京都	20	124	2	35	山口県	10	37	0	57	神戸市	4	21	0
14	神奈川県	10	52	1	36	徳島県	1	18	0	58	広島市	3	29	0
15	新潟県	12	85	1	37	香川県	2	32	2	59	北九州市	4	11	0
16	富山県	3	29	0	38	愛媛県	4	33	0	60	福岡市	4	25	0
17	石川県	4	48	0	39	高知県	0	10	0	61	静岡市	3	35	0
18	福井県	7	42	0	40	福岡県	4	37	0	62	堺市	2	10	0
19	山梨県	3	39	0	41	佐賀県	6	32	0	63	新潟市	2	38	1
20	長野県	12	74	0	42	長崎県	4	69	1	64	浜松市	5	36	0
21	岐阜県	7	92	1	43	熊本県	6	59	1					
22	静岡県	12	67	0	44	大分県	8	62	0		合計	443	3036	21

平成20年度　施設管理者研修カリキュラム

	テーマ	時 間	形式	ねらい	講 師
1日目	開講式	12:30～13:00		挨拶・オリエンテーション	東京センター
	ユニットケアの理念と意義	13:00～14:20 (80分)	講義	高齢者介護施策におけるユニットケアの位置づけと向かうべき方向について理解する。また，ユニットケアの理念とユニットケアに取り組むことの意義を考える。	厚生労働省老健局
	高齢者の生活とその環境	14:30～17:30 (180分)	講義 演習	ユニットケアに転換することで，これまでの集団処遇と比較して，入居者の実際の暮らし，ケアのあり方等，入居者や職員の状態等がどのように変化しうるか，期待される成果をユニットケア導入前後で比較した調査等をもとに理解する。	外部講師
	研修のレビュー	17:30～17:40		今日の研修の振り返り	
	情報交換会	17:40～			
2日目	研修のねらい 諸連絡	9:00～9:10			東京センター
	高齢者とその生活	9:10～11:10 (120分)	演習	グループワークにより事前学習の入居者体験を共有し，高齢者の身体的・精神的状況と高齢者が望んでいる生活を理解する。また，ビデオによる今の介護現場の現状と悩みを理解し，その実態と抱えている課題を共有する。	外部講師 東京センター
	ユニットケア施設における体制の整備及び管理運営	11:20～17:20 (300分)	講義 演習	先駆的にユニットケアの取り組みをしている施設の代表に下記のポイントを中心に話をしてもらい，それぞれの施設での取り組みの工夫や特徴を理解する。ポイント）①導入までのこと ②導入時のこと ③職員対応 ④入居者と家族のこと ⑤運営の工夫と失敗 ⑥ハードの特徴 ⑦管理者として求められること 等。ポイントごとに話を展開し，それを受けてグループで共有をはかり，自施設での悩みや課題を整理し，自施設でのヒントや応用まで展開できるようにする。	外部講師 東京センター
	研修のレビュー	17:20～17:30		今日の研修の振り返り	
3日目	研修のねらい 諸連絡	9:00～ 9:10			東京センター
	ユニットケア導入・ 運営計画演習	9:10～15:10 (300分)	演習	上記演習を受けて，自施設での運営計画を立てる。その計画を各自発表し，意思表明することと他の人の工夫を理解する。	東京センター
	研修のレビュー	15:20～15:30		今日の研修の振り返り	
	閉講式	15:30～16:00			東京センター

平成20年度　ユニットリーダー研修カリキュラム（講義及び演習）

	テーマ	時間	形式	内　容	講 師
1日目	開講式	12:30～13:00		挨拶・オリエンテーション	東京センター
	ユニットケアの理念と意義	13:10～14:10 (60分)	講義	ユニットケアとは，利用者一人ひとりの個性や生活のリズムに沿い，また，入居者が相互に社会的関係を築きながら自律的な日常生活を営めるように介護を行う手法であり，こうしたユニットケアの理念と考え方を学び，利用者，家族及び職員等にとってのユニットケア導入の意義を考える。	厚生労働省老健局
	ユニットケア導入の過程	14:20～15:20 (60分)	講義	研修実施施設における，ユニットケアの導入から現在に至るまでの経緯や運営上の工夫及び課題等，経時的な観点から学ぶ。	実地研修施設
	高齢者の生活とその環境	15:30～18:00 (150分)	講義	高齢者の生活を支える環境やその整備における留意点（入居前の生活の継続性等含む）について学ぶ。 居住空間の種類と構成及びその機能について学ぶ。できるだけ家庭的な雰囲気や，心理的な安定が得られるなじみの環境，快適な環境づくりについて学ぶ。	東京センター
	研修のレビュー	18:00～18:10		今日の研修の振り返り	
	情報交換会	18:20～			
2日目	研修のねらい 諸連絡	9:00～9:10			東京センター
	ユニットケアの具体的方法	9:10～17:20 (430分)	講義 演習	高齢者がその有する能力に応じて自律的に日常生活を営むことを支援するためのポイントについて学ぶ。例えば，食事，入浴，コミュニケーションのとり方等，一日の生活の流れにそって，場面ごとの事例を通して学ぶ。自施設における入居者の一日の生活の流れを，事例と比較しつつ，どうあるべきかを検討する。	外部講師 実地研修施設 東京センター
	研修のレビュー	17:20～17:30		今日の研修の振り返り	
3日目	研修のねらい 諸連絡	9:00～9:10			東京センター
	情報の活用と職員の サポート及び指導等	9:10～15:30 (320分)	演習	ユニット内や，ユニット間の効率的な情報の伝達，職員間での情報の共有や活用方法について学ぶ。職員への指導やサポート方法について学ぶ。自施設における職員研修プログラムについて立案する。	実地研修施設 東京センター
	ユニットケア導入・ 運営計画演習			自施設におけるユニットケアの導入に活用できるよう具体的な取組について，実施計画を立案する。 簡易に取り組める工夫事例及び，段階的に導入する方法等，自施設で取り組める方策を検討する。 受講者間で発表・意見交換する。	東京センター
	研修のレビュー	15:30～15:40		今日の研修の振り返り	
	閉講式	15:40～16:00			東京センター

平成20年度　ユニットリーダー研修カリキュラム（実習）

実習のねらい	ユニットの運営上の留意点や工夫について理解し，自施設でどのようにユニットケアを展開するか検討する。 ①利用者それぞれの時間の流れや生活の流れを体験してもらう。 ②利用者の１日の過ごし方とそれを支える職員の動きを体験してもらう。 ③スケジュールのない施設のケアを体験してもらう。 ④ユニットにおける起床・食事・排泄・身だしなみ・入浴・就寝（出来る所は夜間の様子）を体験してもらう。 ⑤申し送りや記録，合同カンファレンスやミーティング等の情報伝達や情報の共有方策を知る。 ⑥施設内の研修体制やプログラム，職員間のサポート方法を知る。

	勤務体制	時　間	ね　ら　い
1日目	遅番（例）	各施設の勤務時間による	利用者の午後の過ごし方と夕飯の準備から後片付けまでの一連の流れを理解する。そして，夕食後から就寝までの利用者の時の過ごし方と職員の関わり方を学ぶ。
	研修のレビュー	15 分間	今日の研修の振り返り
2日目	遅番（例）	各施設の勤務時間による	前日と同様のねらいを検証する。2 日目になるので流れの感覚もつかめ，より深い理解とし，自施設での展開の組み立てを進める。
	研修のレビュー	15 分間	今日の研修の振り返り
3日目	日勤（例）	各施設の勤務時間による	日中の利用者の過ごし方や他ユニットとの関係などを学び取る。入浴の仕方やあり方も学ぶ。
	研修のレビュー	15 分間	今日の研修の振り返り
4日目	早番（例）	各施設の勤務時間による	利用者の起床から朝食の様子，午前の過ごし方などの一連の流れを理解する。そして，居室や共同生活室のしつらえや利用者の居心地良い空間作りを学び，環境整備等が暮らしの中でどのように行われているか学ぶ。
	研修のレビュー	15 分間	今日の研修の振り返り
5日目	早番（例）	各施設の勤務時間による	前日と同様のねらいを検証する。2 日目になるので流れの感覚もつかめ，より深い理解とし，自施設での展開の組み立てを進める。
	研修のレビュー	15 分間	今日の研修の振り返り

※実習の勤務体制（遅番，日勤，早番等）は実地研修施設により異なります。
　勤務体制及び服装については，各施設に直接お問い合わせくださいますようお願いいたします。

2008年度　ユニットケア指導者養成研修カリキュラム

【初任者研修】

	時間	テーマ	内　容	講師
1日目	13:00-13:30	開講式	挨拶・オリエンテーション・受講者自己紹介	東京センター
	13:30-14:30	講義 60 分 「研修の位置づけと今後の役割」	○ユニットケア指導者養成研修のねらい，体系等を確認し，指導者として期待される役割を学ぶ。 ○ユニットケアの理念と考え方を確認し，国の施策の最新動向等を学ぶ。	厚生労働省 老健局
	14:30-14:45	休憩 15 分		
	14:45-16:15	講義 90 分 「ユニットケアで押さえるべき生活環境のポイント」	○指導者として実践的な指導ができるよう，図面を読み取る力を習得する。 ○図面から読み取った課題の解決方策について，ガイドラインの該当箇所を取り上げながら受講生に説明できる力を習得する。	外部講師
	16:15-16:30	休憩 15 分		
	16:30-18:30	講義・演習 120 分 「リーダー研修2日目の講義・演習の進め方 1」 ①セッション：朝の時間	○リーダー研修2日目のセッションについて，セッションごとに区切りながら，講義・演習の進め方を学ぶ。 ○グループごとにテーマを割り当て，そのテーマについて，キーワード（何が大事か），指導のポイント（何を理解してもらうか），伝え方のヒントを検討し，結果を演習の進め方（白紙）に記入する。 ○グループの検討結果を発表してもらい，講師が，演習の進め方（完全版）と比較対照しながら，講義・演習の進め方を解説する。	東京センター
	18:30-18:45	研修のレビュー	○今日の研修の振り返り	東京センター
	18：45-	情報交換会		
2日目	9:00-9:10	研修のねらい・諸連絡		東京センター
	9:10-16:30	講義・演習 360 分 「リーダー研修2日目の講義・演習の進め方 2」 ①セッション：食事 ②セッション：入浴 ③セッション：その他 ※各 120 分	○リーダー研修2日目のセッションについて，セッションごとに区切りながら，講義・演習の進め方を学ぶ。 ○グループごとにテーマを割り当て，そのテーマについて，キーワード（何が大事か），指導のポイント（何を理解してもらうか），伝え方のヒントを検討し，結果を演習の進め方（白紙）に記入する。 ○グループの検討結果を発表してもらい，講師が，演習の進め方（完全版）と比較対照しながら，講義・演習の進め方を解説する。	東京センター
	16:30-17:30	講義 60 分 「リーダー研修2，3 日目の講義・演習の進め方のノウハウ・留意点」	○2，3 日目の講義・演習全体に共通する基本的な考え方，ノウハウ（グループ分けの仕方，研修室の配置・距離感，受講生に対する姿勢，質問の投げかけ方，予想しない質問への対応等）について，具体的な事例を活用しながら講義する。	東京センター
	17:30-17:45	研修のレビュー	○今日の研修の振り返り	東京センター

2008年度　ユニットケア指導者養成研修カリキュラム

【初任者研修】

	時間	テーマ	内　容	講師
3日目	9:00- 9:10	研修のねらい・諸連絡		東京センター
	9:10-11:00	講義・演習 200 分 「リーダー研修3日目の講義・演習の進め方」 ①セッション：申し送り，記録，ミーティング ②セッション：組織，ケアプラン，研修，ターミナル，シフト ※各 100 分	○リーダー研修3日目のセッションについて，セッションごとに区切りながら，講義・演習の進め方を学ぶ。 ○グループごとにテーマを割り当て，そのテーマについて，キーワード（何が大事か），指導のポイント（何を理解してもらうか），伝え方のヒントを検討し，結果を演習の進め方（白紙）に記入する。 ○グループの検討結果を発表してもらい，講師が，演習の進め方（完全版）と比較対照しながら，講義・演習の進め方を解説する。	東京センター
	11:00-11:15	休憩		
	11:15-11:45	3日間の振り返りテスト 30 分	○初任者研修3日間で学んだリーダー研修2，3日目の講義・演習の指導の仕方のキーポイントについて，テスト形式で全体を通して振り返る。	東京センター
	11:45-12:30	講義 45 分 「指導者としての強み・弱みを知ろう」	○振り返りテストで再確認すべきキーポイントについて，講師が解説する。 ○解説を聞きながら受講者は自己採点を行い，自らの指導者としての強み・弱みを把握する。	東京センター
	12:30-13:30	休憩		
	13:30-14:00	演習 30 分 「指導者としての行動計画を立てよう」	○自らの指導者としての強み・弱みをふまえて，今年度，指導者として活動する上で特に重点的に取り組みたい事項について行動計画を立てる。	東京センター
	14:00-14:30	リーダー研修に向けた事務連絡	○受講生が担当するリーダー研修の日程，グループ分け等の事務連絡を行う。	東京センター
	14:30-14:45	研修のレビュー	○今日の研修の振り返り	東京センター

【実地研修】

	時間	テーマ	内　容	講師
1日目	9:00-17:30	実地研修 リーダー研修2日目講義・演習	○コーディネーター，講師として実際にリーダー研修2日目講義・演習を行う。	
	17:45-18:45	相互講評 60 分 「今日の実践を振り返ろう」	○コーディネーター，講師が，相互に，今日の研修でうまくいったこと，改善すべきことをアドバイスしあう。 ○指導する上で困ったこと，新しく受講生から出された質問，課題等を整理する。	
	18:45-19:00	研修のレビュー	○今日の研修の振り返り	
2日目	9:00-15:50	実地研修 リーダー研修3日目講義・演習	○コーディネーターとして実際にリーダー研修3日目講義・演習を行う。	
	16:00-16:15	研修のレビュー	○今日の研修の振り返り	

2008年度　ユニットケア指導者養成研修カリキュラム

【修了時研修】

	時間	テーマ	内　容	講師
	11:00-11:15	研修のねらい・諸連絡		
	11:15-12:30	演習 75分 「指導者としての活動結果を仲間で共有しよう」	○初任者研修で立てた行動計画に沿って，指導者としてどのように活動したか，活動の実態と工夫点，課題，悩み等をグループで共有する。	東京センター
	12:30-13:30	休憩		
	13:30-15:30	講義 120分 「ユニットケアの最新動向と次年度のリーダー研修の進め方」	○ユニットケアの理念と考え方を確認し，国の施策の最新動向等を学ぶ。 ○前期のリーダー研修の結果報告をふまえ改良された講義・演習の進め方をもとに，最新情報として追加された項目，不要として削除された項目，研修の進め方の改良点を押さえる。 ○結果報告で書ききれなかった指導者として活動する上での疑問・悩み等を指導者間で共有し，次年度以降の活動に向けて解決策を得る。	厚生労働省 老健局 東京センター
	15:30-15:45	閉講式	○挨拶	
	15:45-16:00	次年度研修に向けた事務連絡		東京センター
	16:00-16:15	研修のレビュー	○今日の研修の振り返り	東京センター

4．認知症の人のためのケアマネジメント推進事業

① センター方式を共通ツールとして活用しながら地域包括ケアを推進していくために，以下のような人材育成ならびに地域づくりに関する体系的な研修と報告会を開催した。

	研修名	日程	場所	受講者数
1	センター方式基礎研修（2日/10h）	6月20日・7月22日	大　阪	18
		6月28日・7月19日	東　京	42
		9月20日・10月4日	埼　玉	32
		10月5日・10月19日	熊　本	45
		10月8日・11月14日	兵　庫	46
		10月12日・11月2日	東　京	25
		10月22日・11月12日	静　岡	11
		10月25日・11月29日	兵　庫	66
		11月1日・11月22日	福　岡	29
		11月2日・11月23日	福　岡	24
		11月8日・12月6日	山　梨	25
		11月17日・2月16日	兵　庫	72
		11月22日・12月14日	長　野	30
		12月3日・12月18日	奈　良	24
		12月11日・12月26日	徳　島	31
		12月17日・1月13日	静　岡	30
		12月23日・1月11日	鹿児島	40
		1月9日・1月22日	富　山	50
		1月10日・2月12日	兵　庫	38
		1月18日・2月11日	大　阪	41
		2月20日・3月9日	三　重	25
		2月25日・3月4日	大　阪	25
2－1	センター方式実践研修（1日／5h）	9月21日	東　京	9
		10月11日	仙　台	17
		10月18日	福　岡	11
		11月14日	北海道	7
		11月28日	大　阪	4
		1月17日	大　阪	17
2－2	センター方式テーマ型研修（1日／5h）	1月11日	東　京	34
3－1	認知症ケア地域推進研修（2日／9h）	8月30～31日	東　京	31
		11月15～16日	北海道	11
		11月29～30日	大　阪	24
		12月6～7日	福　岡	28

	研修名	日程	場所	受講者数
4	自治体・行政職研修 （1日／5ｈ）	9月12日	東　京	37
		10月24日	大　阪	71
5	地域づくり講座 （1日／5ｈ）	9月13日	東　京	27
		10月25日	大　阪	50
6	教育担当者研修 （1日／5ｈ）	12月21日	東　京	33
	町づくり報告会 （1日／6ｈ）	3月19日	東　京	160
	センター方式実践報告会 （1日／6ｈ）	3月20日	東　京	189

② 自治体や各種介護・医療関連団体，学校，市民組織が主催するセンター方式の活用と推進に関する研修等の助言・教材提供，講師紹介などの支援

③ センター方式を自治体や事業者，職員，家族等が実際に活用する上での相談・継続的な支援

④ 町づくり報告会

国が平成 19 年度から 2 ヶ年に渡って展開した「認知症地域支援体制構築事業」に取りくんだ都道府県およびモデル地域の総括と全国各地の実践事例の報告，および情報交換の会を開催した。

⑤ 平成 20 年度センター方式実践報告会

センター方式を多資源共通ツールとして活用しながら地域包括ケアを推進している実践事例を全国から幅広く集約し，その実践報告会を 3 月 19 日，東京センターで開催した（189 人が参加）。その実践報告集を作成した。

⑥ ホームページを通じた情報発信

「いつどこネット」を通じて，センター方式に関する研修や教材，活用例等に関する情報発信を行った。

Ⅲ
その他の事業

1．2007年度東京センター研究成果報告会開催報告

東京センターにおける2007年度の研究成果報告会を2008年7月7日（月）に認知症介護研究・研修東京センター大会議室において開催した。当日は約250名の参加者を得て盛会のうちに会を終了することができた。

報告会では，研究・研修スタッフが各自担当した研究のうち，8研究課題の報告を行った。プログラムを以下に示したので参考にされたい。各研究の概要については，2007年度の年報を参照されたい。研究成果の事業報告は，随時ホームページの「認知症介護情報ネットワーク」（通称：DCnet）に掲載されるのでそちらを参照されたい。

研究成果報告会プログラム

開会の挨拶　　長谷川　和夫　東京センター長

研究成果報告Ⅰ　13:40-15:00

- 「地域診断指標ならびに地域支援活動検証事業から：認知症予防の視点に立った地域資源マップ作りの取組み」（小野寺敦志）
- 「認知症の人への介護保険サービス提供時のインフォームド・コンセント実施に際して必要な判断能力評価スケールの開発に関する研究」（渡邊　浩文）
- 「地域高齢者の抑うつ，アパシーの評価と認知機能の関連」（古田　伸夫）
- 「施設入所者の食事摂取量とタンパク質エネルギー栄養障害の関連」（影山　光代）

休　憩　15:00-15:10

研究成果報告Ⅱ　15:10-16:30

- 「認知症の人を地域で支える体制づくりに向けて：全国モデルの実践経過」（永田久美子）
- 「認知症フロアにおける環境改善の取組み：色彩心理学を取り入れた利用者の方が穏やかに暮らせる空間作り」（若林　光世）
- 「認知症介護における現任研修の効果を測定するための指標開発：認知症介護指導者の活動状況と研修の質に焦点をあてて」（諏訪さゆり）
- 「ユニットケアの推進に関する調査」（荻野　雅宏）

閉会の挨拶　　須貝　佑一　副センター長兼研究部長

2．認知症ケア高度化推進事業

東京センターでは，厚生労働省からの委託を受け，平成 20 年から 3 年計画で認知症ケア高度化推進事業（認知症の方やその家族のニーズに適切に対応するため，介護現場における認知症ケアの標準化・認知症ケアの高度化を図ることを目的とした個別訪問相談援助，個別ケアの事例研究，海外調査）を開始した。

1．委員会等の設置

(1) 高度化推進委員会

本事業の進め方等を決める委員会で，医療・介護・法律等の有識者 12 名の委員で構成されている。

(2) 倫理委員会

本事業の倫理規程遵守を管理する委員会で，法律等の有識者 6 名の委員で構成されている。

(3) ワーキングチーム委員会

個別ケアの事例研究の作業チームで，認知症介護指導者等 21 名の委員で構成され，集積された事例を事例提供者とのやりとりを通じて分析し，認知症ケアの視点について，参考事例をもとに「気づきを学ぶ」ものにまとめている。

2．個別訪問相談援助

認知症ケアに課題を抱える介護保険事業所からの援助の申し出に応じ，認知症介護指導者等をその事業所に派遣し，認知症ケアの現場における課題を解決するためのヒントを提供することを目的に，平成 20 年度は 11 件の訪問（特別養護老人ホーム 6 件，老人保健施設 1 件，通所介護 1 件，グループホーム 1 件，居宅介護支援 1 件，地域包括支援センター 1 件）を実施した。

3．個別ケアの事例研究

国内で収集した事例をもとに，委員が分担して事例提供者とワークシートを活用しながら分析し，認知症ケアの視点について，参考事例をもとに「気づきを学ぶ」ものにまとめた。

4．海外調査

スウェーデン及びオーストラリアの 2 カ国について，両国の理念に基づいて体系化されつつある認知症関連研究，ケアの実践等を文献，関連資料，ヒアリング等の調査を通じて集約するとともに，先駆者等の最新の取組みや認知症ケアの動向の把握，制度，支援体制システム，ケアのフレーム等を調査し，背景や現状，課題を整理して，認知症ケアの基本情報をとりまとめた。

5．認知症ケア情報発信サイトの開設

認知症ケア情報発信サイト「ひもときネット」を平成 21 年 4 月 1 日に開設した。

3．認知症介護研究・研修東京センター講演会

当センターの機能である一般住民への啓発事業として，センターが所在する杉並区民を対象とした，認知症ケアに関する啓発活動として講演会を開催した。本講演会は，認知症に関する最新知識を提供するとともに，介護予防の観点から，早期発見早期受診のための実際の知識の提供をねらいとした。講演会の開催内容は下記のとおりであった。

講演会日時：平成20年4月25日(金)　13時30分から15時30分

講演会会場：認知症介護研究･研修東京センター　2階　大会議室

講演テーマならびに講師

テーマ1「認知症の治療最前線」(講師：須貝佑一　東京センター副センター長兼研究部長)

テーマ2「認知症かな?と思ったときの受診の実際」(講師：窪田茂比古　杉並区医師会副会長／窪田クリニック院長)

当日の参加者は，計112名であった。

参加者にアンケートを実施した結果，回答数は96名であった。講演1，講演2ともに，約90%の人が「大変参考になった」もしくは「参考になった」と回答していた。以上から，講演内容は参加者に参考になるものであったことが示された。講演の周知状況については，「区報を見た」「浴風会だよりのチラシをみた」が約75%を占め，区内在住の市民が多く参加していたことがうかがわれた。

講演時間2時間について，約85%が「ちょうどよい」と回答していた。

講演会への意見，感想は「今後も継続して開催してほしい」という要望や「物忘れ外来に一度受診しよう」という意見までさまざまであった。今後希望する内容は「「介護予防」「うつ」「介護保険制度や施設の利用について」「介護の仕方」などが述べられ，今後の講演会の企画運営の参考となるものが示された。

4．医療機関における認知症ケアの質向上と効果的な地域連携を目指した普及・啓発事業

研修会　認知症の人のためによりよい医療サービスを
―本人，家族，介護保険事業所と医療機関との間で伝え合いたいこと―

■目的

認知症高齢者は様々な身体疾患に罹患し，医療機関での治療を必要とすることが多い。しかし医療機関においては，認知症ケアはいまだ十分に普及・実施されておらず，その結果，適切な医療が行われないままに認知症高齢者は退院し，自宅や介護保険施設で療養生活を送っている。このような現状があるため，認知症高齢者はもちろん，家族，介護保険施設の職員も認知症高齢者の身体疾患の治療・看護について不安を抱いており，円滑な地域連携も阻まれている。

そこで，医療機関において認知症高齢者を直接的にケアする看護師や地域連携推進室の職員および家族介護者を対象として研修を実施することを通して，医療機関で良質な認知症ケアを展開するための要点と，そのために家族や介護保険施設と共有しなければならない具体的情報項目について普及・啓発し，家族との連携も含めた効果的な地域連携を目指すことを目的として本事業を実施した。

■開催日時

2009年3月14日（土）　10：30～17：00

■会場

認知症介護研究・研修東京センター2階大会議室

■参加者

認知症介護研究・研修東京センターの認知症介護指導者養成研修を修了した認知症介護指導者425名や認知症の人と家族の会の43支部，さらに関東・新潟ならびに九州・沖縄地域の200床以上のベッドを有する病院1532ヵ所に案内を送付し，212名から申し込みがあった。そのうち先着の160名が参加した。

■プログラム

研修会のプログラムは別紙の通りであった。

■研修会のまとめ―アンケート結果を踏まえて―

参加者のアンケート結果では，認知症高齢者を支えるケアと適切な薬物療法についてや医療と介護との連携のあり方について，学習する機会がこれまでほとんどなかったということを述べている参加者が多数見られた。そのため，今回の研修会における基調講演で，適切な薬物療法のあり方や薬物療法の限界を学習することによってあらためて認知症ケアの重要性を認識し，さらにパネルディスカッションにおいて病院や介護事業所の認知症ケアの現状を理解できたことで，連携の必要性を実感したという意見が大多数を占めた。
また適切な薬物療法や医療との連携について，今後も継続的に研修会を開催してほしいとい

う希望が多数寄せられていた。

＊本事業は，社会福祉法人中央共同募金寄付金（埼玉県民共済生活協同組合助成金）により実施した。

平成２１年３月１４日（土）研修会プログラム

１０：３０～１０：４０　開会のご挨拶ならびにオリエンテーション
認知症介護研究・研修東京センター主任研修主幹　諏訪さゆり

１０：４０～１２：１０　**基調講演１知っておきたい！認知症と薬の知識**
講師　香川大学医学部精神神経医学講座講師　高橋正彦氏
認知症の原因やどのような障害が出現するのかなどについて基本的な知識を理解しましょう。さらに認知症の人の状態に影響を及ぼしやすい薬の作用と副作用についても学びましょう。

１２：１０～１３：１０　休憩
＊昼食は会場内でとることができますが，ゴミは各自お持ち帰りください。

１３：１０～１４：４０　**基調講演２　高齢者のせん妄の予防とケア**
講師　千葉大学大学院看護学研究科教授　酒井郁子氏
認知症と間違われやすいせん妄について理解し，適切なケアを行うことの大切さを学びましょう。

１４：５０～１６：５０　**パネルディスカッション**

テーマ　認知症の人のためによりよい医療サービスを
―本人，家族，介護施設・事業所と医療機関との間で伝え合いたいこと―
認知症の人がよりよい医療サービスを利用できるようになるために，本人，家族，介護保険事業所と医療機関との間でどのような情報を伝え合ったらよいのでしょうか。日ごろの経験を踏まえて，伝え合うことが必要だと思っている情報とその活かし方についてそれぞれの立場から報告していただき，さらに皆で考えていきましょう。

＜パネラー＞
家族・一般市民の立場から　認知症の人と家族の会　水流涼子氏
病院看護師の立場から　横須賀市民病院看護部　水野志保子氏
小規模多機能型居宅介護職員の立場から　ひなたぼっこ　宮崎淳子氏
介護老人保健施設職員の立場から　さつきの里あつぎ　斎藤素江氏
＜座長＞
順天堂大学医療看護学部准教授　湯浅美千代氏
＜オブザーバー＞
香川大学医学部精神神経医学講座　高橋正彦氏

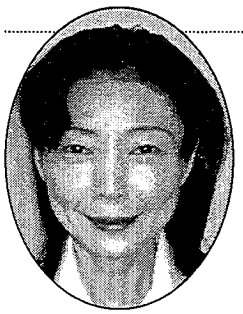
１６：５０～１７：００　閉会のご挨拶
認知症介護研究・研修東京センター主任研修主幹　諏訪さゆり
アンケート記入

IV
スタッフ紹介

凡例
①氏名
②常勤/非常勤
役職と仕事の紹介
③専門分野
④自己紹介
⑤2008年度業績
⑥e-mailアドレス

①須貝 佑一（すがい ゆういち）
②常勤，研究部長兼副センター長：介護研究部門の統括業務。
③老年精神医学
④本業は精神科医で，患者さんを診る仕事が多く，研究に専念できる時間がわずかです。浴風会病院の診療部長を兼ねています。世間で言われているようにこの分野でも医者不足です。外来では認知症を中心とした老年期の精神障害が増えています。精神科医二人で切り盛りし，やや過労気味です。介護が必要になって生活介護施設に入所してきた高齢者もほとんどが認知症です。しかも年齢は年ごとに高齢化し，90歳代の方がたを診る機会が増えました。「早くお迎えにきてほしい」「早くあの世に逝きたい」とおっしゃいます。人が90歳，100歳を生きることとは何かを考えさせられる毎日です。
⑤2008年業績
【著書】
・須貝佑一「家族が認知症と診断されたあなたへ」監修，NHK厚生文化事業団，2008年6月
・須貝佑一「高齢の親をみる家族のための介護大全」すばる舎リンケージ。2008年5月
・須貝佑一「認知症ケアの基礎知識」共著，認知症の医学的特徴 p19－p40，ワールドプランニング社，2008年10月
・須貝佑一「地域包括支援・総合相談事例集」共著，認知症の早期段階での発見 p1631-1643，第一法規，2008年5月
【総説】
・須貝佑一，認知症外来と地域ケア：外来精神医療，8巻，2号, 28-29，2008
・須貝佑一，認知症は予防できる：J Seizon and Life Sci.Vol19,25-36,2008
【学会発表】
・山本真梨子，小林奈美，杉山智子，須貝佑一：高齢者長期ケア施設の転倒事故前の予防策と転倒事故発生状況との関連　第28回日本看護科学学会学術集会（福岡）2008.12
・Kobayashi N, Wati D, Yamamoto M, Sugiyama T, **Sugai Y**. : SEVERE DEMENTIA AS A RISK FACTOR FOR REPEAT FALLER AMONG THE ELDERLY LIVING IN THE LONG-TERM CARE FACILITIES IN JAPAN. The fourth Pan-Pacific Nursing Conference & The Sixth Hong Kong Nursing Symposium on Cancer Care.(Hong Kong)2008.11
・Yamamoto M, Kobayashi N, Sugiyama T, **Sugai Y**. : Review of the validity and reliability of the Morse Fall Scale for use in Japan.The fourth Pan-Pacific Nursing Conference & The Sixth Hong Kong Nursing Symposium on Cancer Care.(Hong Kong)2008.11
・古田伸夫，須貝佑一：地域高齢者の抑うつ，アパシーの評価と認知機能の関連，第23回老年精神医学会（神戸市）2008.6
・杉山智子，小林奈美，山本真梨子，須貝佑一：施設における認知症をもつ高齢者の転倒事故の特徴－中等度ならびに高度認知症高齢者の転倒事故に着目して－　第9回日本認知症ケア学会大会（香川県高松市）2008.11
⑥ysugai@dcnet.gr.jp

①今井 幸充（いまい ゆきみち）
②副センター長兼研修部長　非常勤
③老年精神医学，高齢者福祉が中心。
日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科研究科長を兼任。社会活動として，日本認知症ケア学会副理事長。認知症ケアの向上に努めています。今もっとも研究活動で力を入れているのが地域における医療福祉の連携に関する研究と認知症の人のためのインフォームドコンセントに関する研究です。
④2010年に還暦を迎えるに当たり，人生の節目として何か残したいと思っています。自分が60年間生きてきた証を自分のために残そうと思うのですが，残される者にとっては迷惑かもしれません。人生というものは，歌の文句ではありませんが，「後からほのぼの思うもの」と実感しています。
⑤2008年の研究業績
【著書】
・家族への支援「認知症の理解～介護の視点からみる支援の概要」建帛社　編著　長谷川和夫　2008年10月　p147－164
・第1章　認知症の基礎「認知症の理解と介護」（メヂカルフレンド社）　編者　中村裕子　2008年10月　p 1-50
【総説】
・「認知症に関する介護保険サービスの現状と課題－2006年改正後の課題－」　2008年10月　老年精神医学誌19巻　今井幸充，黄 才栄　1090-1098
・「認知症ケア学会認定認知症ケア専門士に期待されるものと今後の課題　－認知症ケアの標準化を目指して」　2008年6月　老年精神医学誌19巻　今井幸充　650-656
・「専門性を持った人の現状」　2008年12月　日本認知症ケア学会誌19巻　今井幸充　p501-510
【原著論文】
・「認知症の人への居宅サービス計画の説明の実施に関する現状と課題」　2009年3月老年精神医学雑誌20巻　渡邊浩文，今井幸充，鈴木貴子，佐藤美和子他　p325-334
⑥dryuki@dcnet.gr.jp



①永田 久美子（ながた くみこ）
②主任研究主幹，ケアマネジメント推進室長
＜仕事の紹介＞
・認知症の本人が認知症と共により良く暮らしていくために，本人自身の「生きる力」を伸ばしていくための調査研究
・認知症の本人同士の「本人ネットワーク」の推進と調査研究
・本人視点にたった理解と生活支援を，地域の多資源が協働して行っていくためのセンター方式の活用の推進と活用成果・課題の調査研究
・認知症の人と家族が地域で暮らし続けるための地域支援体制を自治体単位で構築していくあり方と推進策の調査研究
③認知症ケア，老年看護学，老年学，地域保健

凡例
①氏名
②常勤/非常勤
役職と仕事の紹介
③専門分野
④自己紹介
⑤2008 年度業績
⑥e-mailアドレス

④「いつでも，どこでも，わが町で自分らしく暮らし続けられるように」。それを夢物語ではなく，現実のものに近付けようというチャレンジをしている人々や地域から勇気をもらう毎日です。少々，くたびれモードですが，平成 21 年度はとても大事な一年なので，たくさんの人と力をあわせながら，「楽に，楽しく，いっしょに」をモットーにしのいでいます。ぜひ，上記のテーマにご関心のある方は，一緒に研究をしませんか？

⑤2008 年度の業績

【著書】

・監修：認知症介護研究・研修東京センター，永田久美子編著：認知症ケアをもっと楽に！　本人と家族のためのセンター方式ガイド，中央法規，2008
・永田久美子：認知症の人の在宅生活を支える介護・看護，佐藤智編集代表：高齢者ケアと在宅医療，中央法規，356－386，2008
・永田久美子：認知症を有する高齢者の介護，日本老年医学会編：老年医学テキスト，メディカルビュー社，280－284，2008
・永田久美子：第 1 章　認知症の人の体験の理解，介護福祉士養成講座編集員会編：新・介護福祉士養成講座　12，中央法規，2008
・永田久美子：認知症の人のケア，長谷川和夫編：介護福祉士養成テキスト 15，認知症の理解，建帛社，81－107，2008
・永田久美子：地域包括ケア（老年期地域看護），日本精神科看護技術協会監修：実践精神科看護テキスト 16，老年期精神障害看護，精神看護出版，230－243，2008
・永田久美子：認知症と共に生きる人たちはどんなケアを求めているのか，上野千鶴子，大熊由紀子，大沢真理，神野直彦，副田義也　編：ケア　その思想と実践 3，ケアされること。岩波書店，2008
・永田久美子：「認知症の人を支えるまち」の仕組みづくり，CLC 編著：宅老所・小規模多機能ケア白書，185～221，2008，
・永田久美子・荒木由美子：安心して出歩ける町に，NHK 福祉ネットワーク編：シリーズ認知症と向き合う 3，地域で支える介護と医療，旬報社，98－107，2008
・永田久美子：グループホームケアのこれからについて，山井和則，上田理人編著：改訂新版グループホームの基礎知識，91－97，二見書房，2008
・永田久美子監修：高瀬直子：まんがで学ぶはじめての認知症ケア，小学館，2008
・永田久美子監修：DVD これからの介護，自分らしく生きることを支えて，認知症介護研究・研修東京センター，2008
・永田久美子監修：地域密着型サービス映像資料，自分らしく最期まで，認知症介護研究・研修東京センター，2008
・永田久美子監修，アビリティクラブたすけあい：認知症の人・本人のを世界を体験する研修用 DVD，認知症　そのこころの世界～認知症の人は何を感じているのか～，シルバーチャンネル，2008

【原著】

・Yukiko Tanaka, Kumiko Nagata Tomoe Tanaka, Koichi Kuwano, Hidetoshi　Endo, Tetsuya Otani, Minato Nakazawa　and Hiroshi Koyama: Can an individualized and comprehensive care strategy improve urinary incontinence (UI) among nursing home residents?
・中島民恵子・永田久美子・平林景子・山梨恵子「自治体における地域密着型サービスの整備計画と質の確保・向上にむけた取り組みに関する研究」『日本認知症ケア学会誌』7(1)：59-69.2008

【総説】

・永田久美子：適切なケアの普及と地域支援体制，Aging & Health　2008

・永田久美子：認知症対策の現状と課題，保健師ジャーナル，64（9），2009

・永田久美子：センター方式で互いの可能性をひらく①　センター方式は情報を伝えあう日常ツール。そこから生まれるチームワーク，Dementia Care Support，2008年春号，570－575，

【学会発表】

・桑野康一，下山久之，佐久間尚実，小林厚子，関口清貴，永田久美子，遠藤英俊：センター方式とDCMを活用した認知症ケアの効果的な支援モデルの開発，日本臨床医療福祉学会退会，2008年

・中島民恵子，永田久美子，平林景子：地域密着型サービスにおける質の確保・向上にむけた方策のあり方に関する検討，第9回認知症ケア学会大会，2008年

⑥　knagata@itsu-doko.net

①**小野寺 敦志**（おのでら あつし）

②常勤，研究企画主幹

③老年心理学，臨床心理学

④心理学の観点から，介護現場のやる気づくりに取り組んでいます。また杉並区内の地域包括支援センターの協力のもと，協働の形で，地域在住の高齢者を支援するための地域資源マップ作りをしています。

⑤2008年度の業績

【著書】

・青葉安里，小野寺敦志（2008）老年期（上島国利，丹羽真一　編集「NEW　精神医学改訂第2版」）　pp：147-152　南江堂，東京

・小野寺敦志　編著（2008）　基礎から学ぶ介護シリーズ　事例で学ぶ新しい認知症介護　中央法規，東京

・小野寺敦志（2009）第3章第6節「認知症の人の心理的理解」（介護福祉士養成講座編集委員会　編集「新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解」）pp：100-112　中央法規，東京

・小野寺敦志（2009）第3章第1節，第2節（「社会福祉学習双書」編集委員会編「社会福祉学習双書　心理学　心理学理論と心理的支援」）pp：110-119　全国社会福祉協議会，東京

【総説】

・介護人材Q&A（産労総合研究所）　「認知症高齢者のより良い生活の実現に向けてその基本理解と各事例からの学び」（2007年11月号～2008年10月号：完結）

・おはよう21　2008年10月号　「特集　認知症の人と，どうかかわっていますか？」

【学会発表】

・小野寺敦志，遠藤忠，山中克夫，松浦美知代，結城拓也（2008）介護保険施設における人材育成の現況調査研究，第50回に本老年社会学会大会（大阪府立大学）

⑥なし

凡例
①氏名
②常勤/非常勤
役職と仕事の紹介
③専門分野
④自己紹介
⑤2008 年度業績
⑥e-mailアドレス

①諏訪 さゆり（すわ さゆり）
②常勤・主任研修主幹　認知症介護指導者養成研修と認知症介護指導者フォローアップ研修を担当
③認知症ケア　老年看護学
④WHO の国際生活機能分類 ICF の考え方に基づいて，根拠のある認知症ケアを一歩一歩構築していきたいと思っています。
⑤2008 年度の業績

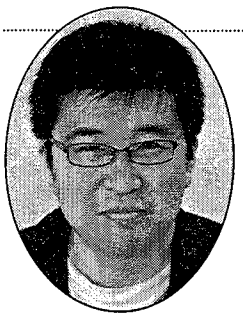
【原著】
・心光世津子　遠藤淑美　諏訪さゆり：大阪大学看護学雑誌，精神看護学実習への ICF の視点導入に向けた研究　第 1 報　－自己評価表の分析にみる精神看護学実習受講生の苦手傾向と教育課題－，P1－P8，2009.Vol.15　No.1
・遠藤淑美　心光世津子　諏訪さゆり：大阪大学看護学雑誌，精神看護学実習への ICF の視点導入に向けた研究　第 2 報　－自己評価表自由記述にみる学生の傾向と教育課題－，P9－P18，2009.Vol.15　No.1

【著書】
・結城拓也　黄才栄　諏訪さゆり：黒澤貞夫，小熊順子　編著，介護福祉士要請テキスト 7　コミュニケーション技術，第 8 章　報告，会議，記録　⑦ICF の視点に基づく認知症ケア，P141－P170，建帛社，2008
・諏訪さゆり：柴田範子，白井孝子，本名靖，綿祐二　編著，介護福祉士要請テキスト 8　生活支援技術Ⅰ，第 8 章　ICF に基づく支援の視点，P183－P201，建帛社，2008
・諏訪さゆり：長谷川和夫　編著，介護福祉士要請テキスト 15　認知症の理解，第 3 章　認知症の人のケア　⑦ICF の視点に基づく認知症ケア，P136－P146，建帛社，2008
・諏訪さゆり：日本認知症ケア学会　監修，本間昭　編著，認知症ケアのためのケアマネジメント，第 6 章　認知症の人のアセスメントとケアプランに活かす ICF の考え方，P99－P119，ワールドプランニング，2008
・諏訪さゆり：永井良三　監修，看護に役立つ　疾患・症候辞典　病態がわかる　ケアがわかる，認知症　看護，P1151－P1156，メヂカルフレンド，2008

⑥izuharu@dcnet.gr.jp

①秋葉 都子（あきば みやこ）
②常勤，主任研修主幹
③高齢者福祉（ユニットケア）
施設ケアのあり方を中心に研修をしている。そのなかで，施設の中で個別ケアを展開するケアの方法としてのユニットケアの研修（管理者研修・ユニットリーダー研修・指導者研修）やケアワーカー以外の看護師や食事担当部署などの研修を推進している。
④平成と同時に高齢者福祉にトラバーユし，ユニット型施設の施設長を経験し，今，ユニットケアを普及するため，当研修事業に関わっています。現場は何を求めているのか，その感性を大事に，現場が具体的に一歩進めるその策を皆で考えることを大切にしていきたいと思います。「3 人いれば文殊の知恵」多くの実践の仲間が集まり，知恵を出し合える関係作りが当室の役割かとも思っています。ユニットケアを進めていけばいくほど，「暮らし」の感性が求められ，自分自身の感性も求められます。朝の新鮮な空気に目覚め，夕陽に安

らかさを感じられるそんなことも目指しています。
⑥akimiya@dcnet.gr.jp



①中村 考一（なかむら こういち）
②常勤，研修主幹
③高齢者福祉，認知症高齢者の外出支援，介護職員が行うソーシャルワーク的支援
④弁当を作り始めました。ただいま週3ぐらいのペースで作っています。（4ヶ月目）レパートリーを増やしていきたいと思います。弁当にお勧めのおかずを教えて下さい！
⑤2008年度の業績業績
【学会発表】
・中村考一「認知症介護を行う専門職チームのケアの方向性統一に資する研修コンテンツの作成」第9回日本認知症ケア学会　香川　2008.9
⑥nakamura4851@dcnet.gr.jp

①荻野 雅宏（おぎの まさひろ）
②常勤，研修主幹
③介護福祉
④2006年4月よりユニットケア推進室に入りました。それまでは現場です。特養の介護主任として5年間勤めてまいりました。現場ではとにかく情報が不足していました。日々の生活に追われ，仕事の振り返りや新しい知識を仕入れることができません。そんな現場の要望に少しでも答えることができたら良いと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。
⑥m-ogino@dcnet.gr.jp

①吉村 百代（よしむら ももよ）
②非常勤，図書管理・研修事務
④長年センターに生息しすぎて，最初の 1，2 年の記憶が全く思い出せない今日この頃。
今年も階段を上に下に駆け巡りました☆研修期間中の行動力と仕事量は普段の力量を超越していますが，近年は超人の域です。ハイパーメディアクリエーターって名乗ってみようかしら。デザイン業もぼちぼちしていますが，こちらは，ぐうたら市すぐやらない課，，，
⑥Bewitched27@dcnet.gr.jp

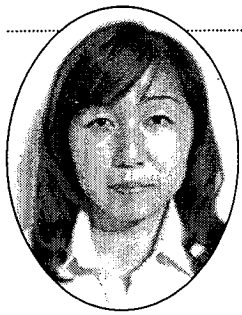
IV
スタッフ紹介

凡例
①氏名
②常勤/非常勤
役職と仕事の紹介
③専門分野
④自己紹介
⑤2008年度業績
⑥e-mailアドレス

①齊藤 祐介（さいとう ゆうすけ）
②出向，研修指導員
④2008年10月より研修部で研修指導員をしています。これまで10年間，認知症ケアの現場にいて，自分自身も2003年に東京センターで指導者研修を修了しました。何だか鮭が生まれた川に戻ってきた気分です。新潟から上京してすぐに折れてしまった鎖骨も半年かけてようやくつながりましたので，この経験を活かし，たくさんの人出会い，学びを深め，認知症ケアの現場と研修をつなげるカルシウムになろうと思います。
⑥saitou.y@dcnet.gr.jp

①木澤 則子（きざわ のりこ）
②非常勤。研修指導員
③知的障害者福祉
④初めて浴風会へ伺った日，あまりに広く自然にみちていて驚きました。
そんな環境で一年が経ち，通勤時の朝夕とお昼休みに肌で四季を感じております。
春は第3南陽園の前のひだれ桜の美しさに感動し，秋は浴風会病院の玄関前にある陽に輝く銀杏の樹に感動しています。職場でこんなに自然にふれ合うことができるなんて，とても贅沢な思いです。
そしてこの一年，人との出逢いもたくさんありました。
いろいろな施設で，認知症の方ともたくさんお話しさせていただきました。どの方も思いやりに溢れていて，初対面の私を気遣ってくれました。
一日はあっと言う間に過ぎていきますが，人との出逢い，自然との出逢いを心にきちんと受け止めながら，一歩づつ前に進めたらいいなと思っている今日この頃です。
⑥n-kizawa@dcnet.gr.jp

①石田 誠（いしだ まこと）
②非常勤
③介護福祉
④2004年5月よりユニットケア施設研修事業を担当しています。研修事業を通じ，講師の先生方，受講し得の皆様の体験談などを聞き，尊厳や人権といった耳慣れない言葉が，自分の中で具体的なものとなってきました。好きな時間に寝起きする，好きな物を好きな時に食べる，単純で当たり前のことです。単純で当たり前のことを基本にして以下に介護していくか，日々考えながら研修事業に励んでいくつもりです。
⑥makoto-ishida@yf6.so-net.ne.jp

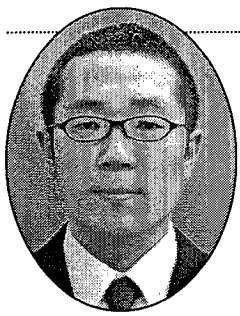


①宮口 恵美子（みやぐち えみこ）

②非常勤，研修事務

④3年前までは福祉に関してはまったくの初心者でしたが，センターでユニットケア研修に携わり，介護のことなどが少しわかってきたところです。これからも勉強していきたいと思います。また，今年は子育てがひと段落したので，何か新しいことにチャレンジしたいと思っています。

⑥e-miyagichi@dcnet.gr.jp



①遠藤 忠（えんどう ただし）

②非常勤。研究員

③老年心理学

④2008 年度は主に厚生労働省老人保健健康増進等事業認知症介護予防のための地域支援に関する調査研究のうち「認知症予防のための住民ボランティア育成と活用に関する調査研究事業」に携わって参りました。ヒアリング調査等をとおして，地域において認知症予防ならびに認知症ケア，家族介護者支援に先進的に取り組む諸団体の活動の現状を垣間見ることができました。そして地域資源としての住民ボランティアの重要性を改めて認識しました。

⑤業績

【原著】

・N. MURAYAMA・E. ISEKI・T. ENDO・K. NAGASHIMA・R. YAMAMOTO・Y. ICHIMIYA・K. SATO・H. ARAI (2009). Risk Factors for Delusion of Theft in Patients with Alzheimer's Disease Showing Mild Dementia in Japan *Aging and Mental Health.*

【紀要】

・遠藤 忠・佐々木心彩・長嶋紀一 (2008). 要介護(要支援)高齢者を居宅において介護している家族介護者の支援に関する心理学的検討：介護に関する話し合いや勉強会への参加状況と主観的 QOL および介護負担感について 研究紀要（日本大学文理学部人文科学研究所），75，175-188.

・2. 村山憲男・山本涼子・佐々木心彩・遠藤 忠・長嶋紀一・井関栄三 (2009). 大学生におけるアルツハイマー病と非アルツハイマー型変性性認知症の知名度と理解度 順天堂精神医学研究所紀要.

【学会発表】

・遠藤 忠・蝦名直美・望月正哉・小野寺敦志・長嶋紀一. 家族介護者の介護負担感と主観的 QOL に関する研究：認知症の有無と家族介護者の居宅サービス満足度評価との関連性について 日本心理学会第 72 回大会（2008 年 9 月 19 日～21 日）／北海道大学高等教育機能開発総合センター（北海道札幌市）.

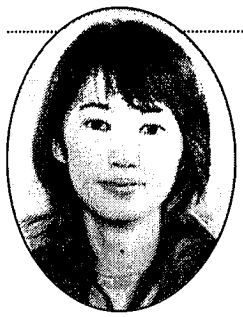
・遠藤 忠・蝦名直美・小野寺敦志・長嶋紀一. 家族介護者の介護負担感と主観的 QOL に関する検討：認知症の有無と要介護度別による違いについて 第 50 回日本老年社会科学会大会（2008 年 6 月 27 日～29 日）／大阪府立大学（大阪府堺市）.

・遠藤 忠・小野寺敦志・松浦美知代・山中克夫・結城拓也・石井記恵子・木下高義・橋

凡例
①氏名
②常勤/非常勤
役職と仕事の紹介
③専門分野
④自己紹介
⑤2008 年度業績
⑥e-mailアドレス

谷トミ・清水秀則．介護保険施設の人材育成に関する訪問インタビュー調査：小規模施設における人材育成の取り組みや課題認識の現状について　第 9 回日本認知症ケア学会大会（2008 年 9 月 26 日～28 日）／サンポートホール高松（香川県高松市）．

①**渡辺 紀子**（わたなべ のりこ）
②非常勤
④2004 年にケアマネジメント推進室　事務を担当後，2005 年度より「認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100 人会議」事務局業務を（国際長寿センターにて），2007 年度より東京センターにて同業務および「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン事務局業務を担当させていただいています。地域づくりをテーマとする事業の業務ですが，これまでの×ん年間に福祉以外の分野で経験してきたことを活かせるよう，日々尽力したいと思っています。
⑥watanabe@dcnet.gr.jp



①**玉川 桜子**（たまがわ さくらこ）
②出向
認知症ケア高度化事業推進室で平成 20 年度より厚生労働省から委託された「認知症ケア高度化推進事業」の事務局を担当しています。当事業は認知症の方々や介護者の方々のニーズに適切に対応売るため，国内外の実践例及びその分析を行い，情報発信を行うことで，認知症ケアの向上を図るものです。
①個別訪問相談援助事業②個別ケアの事例研究③海外調査の 3 つの柱から成ります。
詳しくは，是非 DCnet をご覧いただければ幸いです。
④「君が考えること，語ること，すること，その 3 つが調和しているとき，そのときこそ，幸福は君のものだ」マハトマ ガンジーの言葉のようにいつかなれたらいいな，と思っております。

運営部

運営部長	森 重 賢 治
運営部主管	松 崎 勝 巳
運営部総務課長	多 胡 岳 志
運営部総務係長	冨 島 理 恵

V
運営部活動報告

1．事業実績報告

(1) 運営体制等

ア 認知症ケア高度化事業推進室の設置

平成22年度までの3ヶ年事業として実施する認知症ケア高度化事業を円滑に進めるため，推進室を平成20年4月1日に設置した。

イ 認知症介護研究・研修センター全国運営協議会の開催

3センターの運営等を協議する第9回認知症介護研究・研修センター全国運営協議会が，仙台センターが当番となって平成20年12月1日に仙台において開催された。

(2) 研究成果報告会等

ア 東京センター研究成果報告会の開催

平成19年度研究事業の研究成果報告会を平成20年7月7日（月）に開催し，認知症介護研究に対する関係者の理解を深めた。

イ ３センター合同研究成果報告会の開催

大府，仙台，東京3センター合同による，平成19年度研究成果報告会を東京センターが当番となって，平成20年6月23日（月）東京で開催した。

(3) その他の事業

ア 認知症高齢者ケアマネジメント推進事業

① 認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を共通ツールとして活用しながら地域包括ケアを推進していくために，以下のような体系的な研修を実施した。

・センター方式地域型基礎研修	22回	767人
・センター方式実践研修	6回	65人
・地域推進研修	4回	97人
・テーマ型研修（若年・虐待・ターミナル）	1回	34人
・地域づくり講座	2回	77人
・自治体・行政職員研修	2回	108人
・教育担当者研修	1回	33人

② 自治体や各種サービス団体，学校，市民組織が主催するセンター方式活用推進に関する研修等の助言・教材提供，講師紹介などの支援

③ センター方式を自治体や事業者，職員，家族等が実際に活用する上での相談・支援

④ 平成20年度センター方式実践報告会

センター方式を多資源共通ツールとして活用しながら地域包括ケアを推進している実践事例を全国から幅広く集約し，その実践報告会を3月19日，東京センターで開催した（約200人が参加）。その実践報告集を作成した。

⑤ ホームページを通じた情報発信

「いつどこネット」を通じて，センター方式に関する研修や教材，活用例等に関する情報発信を行った。

イ 認知症の体験世界や本人ネットワーク等の普及

なじみの交流コーナーを活用して認知症の体験世界の理解の普及をはかるとともに，

国が認知症を知り地域をつくる 10 カ年構想のもとに進めている認知症の人同士が知り合い，意見交換やお互いの経験の共有ができるように，また，本人たちの思いを社会に伝えるために認知症の方がつながっていくための支援をしていくことを目的とする本人ネットワーク支援の活動に協力した（リーフレットの作成や，ホームページ「だいじょうぶネット」を通した情報発信の協力等）。

ウ　厚生労働省が実施する認知症地域支援体制構築等推進事業の支援

認知症地域支援体制構築等推進事業モデル地域における効果的な事業実施を支援するとともに，認知症地域支援体制推進委員会を設置して今後の全国の自治体での認知症地域支援体制の構築を効率的に推進していくための「総合的な推進モデル」試案及び「ガイドライン」試案の策定を検討した。

エ　認知症ケア高度化推進事業の実施

認知症の方やその家族のニーズに適切に対応するため，介護現場における認知症ケアの標準化・認知症ケアの高度化を図ることを目的に，個別訪問相談援助，個別ケアの事例研究，海外調査を行い，ホームページ「ひもときネット」を開設し掲載を開始した。

オ　認知症介護研究情報ネットワーク

① 平成 20 年度「認知症介護情報ネットワーク（通称：DCnet)」の運用連絡会を 2 回開催した。

平成 20 年 4 月 22 日　東京センターにて開催

平成 20 年 11 月 5 日　ホテルアソシア名古屋ターミナルにて開催

② 平成 20 年度の運用状況としては，随時情報の更新等行った結果，DCnet へのアクセス数（利用度）は昨年を上回る月平均 299 万件であった。

③ 平成 19 年度にひきつづき，平成 20 年度の東京センター研究事業として，仙台及び大府の 2 センターの協力を得て，Web 学習コンテンツの作成を行った。今年度は Web 学習を 4 教材作成し DCnet 上に掲載した。

カ 「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーン関連事業の実施

厚生労働省および民間諸団体が進める「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーンに関連し，第 5 回「認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100 人会議」開催などを行うとともに，「『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン 2008」を実施した。

① 「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーンの推進

本キャンペーンを推進する「認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100 人会議」事務局及び国民キャンペーン全体の広報担当として，会議の運営，報告会の開催，マスコミへの情報提供と番組作りへの協力，関連講演会への協力，認知症「本人交流会」の支援者養成に関する広報担当などを行うとともに，平成 21 年 3 月 7 日に第 5 回「認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100 人会議」を開催（認知症キャンペーン報告会）した。

② 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン 2008

東京・仙台・大府の３センターは，社団法人認知症の人と家族の会との共催，住友生命保険相互会社の協賛により，認知症の人を地域で支える先進的活動を広く全国から募集し，その活動内容や経験を伝えあうことによって，認知症の人の本来の力を活かしてともに暮らす新しい町づくりを推進していくことを目的とするキャンペーンを，前年度に引き続き実施した。

最終的に全国より 70 点の応募があり，平成 20 年 12 月 18 日に開催した「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン 2008 地域活動推薦委員会（委員長　堀田　力 <財>さわやか福祉財団理事長）において慎重に検討した結果，以下の 7 点の「町づく

り 2008 モデル」が決定した。

○「仲間と共に，若年性認知症をイキイキと！」

【若年性認知症グループ どんどん】（神奈川県川崎市）

○「公立中学校の空き教室・花壇を住民（認知症者を含む）と中学生が協働作業を通して認知症を正しく理解する」

【社会福祉法人 リデライトホーム】（熊本県熊本市）

○「認知症メモリーウオーク・千葉」

【第 2 回 認知症メモリーウオーク・千葉実行委員会】（千葉県）

○「目黒たけのこ流・認知症ネットワーキング」

【目黒認知症家族会 たけのこ】（東京都目黒区）

○「親父パーティーが地域を変える！～認知症地域資源ネットワーク『NICE！藤井寺』の構築～」

【社会福祉法人 藤井寺市社会福祉協議会】（大阪府藤井寺市）

○「であう・ふれあう・わかちあう 認知症の人の見守り支援『あんしんメイト』」

【NPO 法人 認知症サポートわかやま】（和歌山県和歌山市）

○「地域と共に歩む老人ホームを目指して」

【社会福祉法人 ゆうなの会 特別養護老人ホーム大名】（沖縄県那覇市）

表彰式，地域活動報告会は「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーン報告会と合わせて，平成21年3月7日に草月ホールにおいて開催し，表彰と活動内容の発表を行った。また，応募いただいた 70 の事例について報告書にまとめ関係者に配布したほか，これまでに応募いただいた全事例をデータベース化し，100 人会議と共同で立ち上げた検索サイト（ホームページ）へ 70 事例を追加した。

キ 消費生活協同組合助成金を基にした普及・啓発事業の実施

① 若年性認知症の本人と作る「わが町生活ガイド」

（全国労働者共済生活協同組合連合会助成金）

（事業の結果概要）若年性認知症が日々暮らす上での困りごとと本人なりの対処法，本人が求める支援策についての詳細な調査を通じて，本人が自分でできる工夫，周囲ができる支援をわかりやすくまとめた「わが町生活ガイド」を本人と共に作成した。

② 医療機関における認知症ケアの質向上と効果的な地域連携を目指した普及・啓発

（社会福祉法人中央共同募金寄付金（埼玉県民共済生活協同組合助成金））

（事業の結果概要）医療機関で良質な認知症ケアを展開するための要点と，そのために家族や介護保険施設と共有しなければならない具体的情報項目について普及・啓発し，家族との連携も含めた効果的な地域連携を目指すことを目的とした研修会を，平成 21 年 3 月 14 日に認知症介護研究・研修東京センターにおいて実施した。参加者は，医療機関の看護師や地域連携推進室の職員および家族介護者など合計 160 名であった。具体的には，認知症高齢者に対する適切な薬物療法のあり方，医療ニーズの高い認知症高齢者をケアする上で重要となる，せん妄の理解とケア，医療機関や介護保険施設においてよりよいケアを目指す上での課題と解決策について普及・啓発がなされ，研修会後のアンケートより，参加者にとって非常に有意義な研修会であったことが明らかになった。

ク 年報の発行

2007（平成 19）年度のセンターの研究事業，研修事業及びその他事業について，報告書にとりまとめ，関係方面に配布した。

ケ　認知症介護に関する啓発関係出版物等

平成20年度において，認知症介護関係の公表された印刷物等については，研究事業における各研究テーマの報告書のほかに，次のものがある。

① 冊子「認知症の人のためのケアマネジメント　センター方式シートパック（解説付き）2008年7月版の編集・発行

自治体や組織団体等が主催するセンター方式の活用に関する研修や現場で活用する事業者等の増加に伴い，資料提供や活用の利便性，活用の質の確保をはかるために，センター方式の解説を付したシート集を作成した。

② DVD「入居者の暮らしを支える看護職の役割」の企画・製作

施設に暮らす入居者は，加齢に加え，疾病や障害のために日常生活を送る上で何らかのサポートを必要としており，看護職は，他職種と連携をとり，疾病やその悪化を予防しながら，入居者一人一人がその人らしく健康的に生活できるような支援を求められている。看護職の一日を追いながら，高齢者施設における役割をまとめた。

2．2008年度 東京センター活動一覧

研究事業実施に係る委員会及びセンター運営会議の実施状況は省略

開催年月日	研修会等の名称（開催場所）
平成20年6月4日 ～ 平成20年6月6日	第1回ユニットリーダー研修（京都テルサ）
平成20年6月11日 ～ 平成20年6月13日	第1回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年6月11日 ～ 平成20年6月13日	第2回ユニットリーダー研修（KKRホテル名古屋/ウィルあいち）
平成20年6月18日 ～ 平成20年6月20日	前期ユニットケア指導者養成研修 初任者研修（東京センター）
平成20年6月20日 ・ 平成20年7月22日	センター方式基礎研修（大阪）全2日
平成20年6月23日	平成19年度3センター合同研究成果報告会（こまばエミナース）
平成20年6月25日 ～ 平成20年6月27日	第3回ユニットリーダー研修（KKRホテル仙台/ショーケー本館ビル）
平成20年6月28日 ・ 平成20年7月19日	センター方式基礎研修（東京）全2日
平成20年7月2日 ～ 平成20年7月4日	第4回ユニットリーダー研修（ウェルサンピア多摩）
平成20年7月7日	平成19年度研究成果報告会（東京センター）
平成20年7月9日 ～ 平成20年7月11日	第2回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年7月16日 ～ 平成20年7月18日	第5回ユニットリーダー研修（北海道第二水産ビル/かでる2.7）
平成20年7月23日 ～ 平成20年7月25日	第6回ユニットリーダー研修（ホテル天地閣）
平成20年7月30日 ～ 平成20年8月1日	第7回ユニットリーダー研修（メルパルク名古屋/ウィルあいち）
平成20年8月4日 ～ 平成20年8月6日	第8回ユニットリーダー研修（長崎ブリックホール）
平成20年8月6日 ～ 平成20年8月8日	第3回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年8月20日 ～ 平成20年8月22日	第9回ユニットリーダー研修（海峡メッセ下関）
平成20年8月23日	シンポジウム「認知症高齢者の転倒を重大事故にしないために」（東京センター）
平成20年8月27日 ～ 平成20年8月29日	第10回ユニットリーダー研修（パストラル長岡）
平成20年8月30日 ～ 平成20年8月31日	センター方式地域推進研修（東京）
平成20年9月3日 ～ 平成20年9月5日	第4回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年9月3日 ～ 平成20年9月5日	第11回ユニットリーダー研修（熊本交通センターホテル）
平成20年9月10日 ～ 平成20年9月12日	第12回ユニットリーダー研修（多摩永山情報教育センター）
平成20年9月12日	自治体・行政職研修（東京）
平成20年9月13日	地域づくり講座（東京）
平成20年9月17日 ～ 平成20年9月19日	第5回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年9月20日 ・ 平成20年10月4日	センター方式基礎研修（埼玉）全2日
平成20年9月21日	センター方式実践研修（東京）
平成20年9月25日 ～ 平成20年9月26日	第1回ユニットケア研修フォローアップ研修（東京センター）
平成20年10月1日 ～ 平成20年10月2日	第1回看護職のためのユニットケア研修（東京センター）
平成20年10月3日	前期ユニットケア指導者養成研修 修了時研修（東京センター）
平成20年10月5日 ・ 平成20年10月19日	センター方式基礎研修（熊本）全2日
平成20年10月8日 ～ 平成20年10月10日	第6回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年10月8日 ・ 平成20年11月14日	センター方式基礎研修（兵庫）全2日
平成20年10月11日	センター方式実践研修（仙台）

平成20年10月12日	・ 平成20年11月2日	センター方式基礎研修（東京）全2日
平成20年10月18日		センター方式実践研修（福岡）
平成20年10月20日	～ 平成20年10月21日	第2回看護職のためのユニットケア研修（東京センター）
平成20年10月22日	～ 平成20年10月24日	第13回ユニットリーダー研修（ハーネル仙台）
平成20年10月22日	・ 平成20年11月12日	センター方式基礎研修（静岡）全2日
平成20年10月24日		自治体・行政職研修（大阪）
平成20年10月25日		地域づくり講座（大阪）
平成20年10月25日	・ 平成20年11月29日	センター方式基礎研修（兵庫）全2日
平成20年10月27日	～ 平成20年10月28日	第2回ユニットケア研修フォローアップ研修（新梅田研修センター）
平成20年10月29日	～ 平成20年10月31日	第14回ユニットリーダー研修（天満研修センター）
平成20年11月1日	・ 平成20年11月22日	センター方式基礎研修（福岡）全2日
平成20年11月2日	・ 平成20年11月23日	センター方式基礎研修（福岡）全2日
平成20年11月5日	～ 平成20年11月7日	第15回ユニットリーダー研修（札幌市教育文化会館/かでる2.7）
平成20年11月8日	・ 平成20年12月6日	センター方式基礎研修（山梨）全2日
平成20年11月10日	～ 平成20年11月12日	第16回ユニットリーダー研修（燕三条ワシントンホテル/三条・燕地域リサーチコア）
平成20年11月12日	～ 平成20年11月14日	第17回ユニットリーダー研修（福岡国際会議場）
平成20年11月14日		センター方式実践研修（北海道）
平成20年11月15日	～ 平成20年11月16日	センター方式地域推進研修（北海道）
平成20年11月17日	・ 平成20年2月16日	センター方式基礎研修（兵庫）全2日
平成20年11月19日	～ 平成20年11月21日	第7回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年11月19日	～ 平成20年11月21日	第18回ユニットリーダー研修（ウェルシティ東京）
平成20年11月22日	・ 平成20年12月14日	センター方式基礎研修（長野）全2日
平成20年11月26日	～ 平成20年11月28日	第19回ユニットリーダー研修（金山プラザホテル）
平成20年11月28日		センター方式実践研修（大阪）全2日
平成20年11月29日	～ 平成20年11月30日	センター方式地域推進研修（大阪）
平成20年12月1日		全国運営協議会（仙台）
平成20年12月3日	～ 平成20年12月5日	後期ユニットケア指導者養成研修 初任者研修（東京センター）
平成20年12月3日	～ 平成20年12月5日	第20回ユニットリーダー研修（川越福祉センター）
平成20年12月3日	・ 平成20年12月18日	センター方式基礎研修（奈良）全2日
平成20年12月6日	～ 平成20年12月7日	センター方式地域推進研修（福岡）
平成20年12月8日	～ 平成20年12月9日	第3回ユニットケア研修フォローアップ研修（東京センター）
平成20年12月10日	～ 平成20年12月12日	第8回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成20年12月10日	～ 平成20年12月12日	第21回ユニットリーダー研修（熊本全日空ホテルニュースカイ）
平成20年12月11日	・ 平成20年12月26日	センター方式基礎研修（徳島）全2日
平成20年12月16日	～ 平成20年12月17日	食に携わる職員のためのユニットケア研修（東京センター）
平成20年12月17日	～ 平成20年12月19日	第22回ユニットリーダー研修（KKRホテル名古屋/ウィルあいち）
平成20年12月17日	・ 平成21年1月13日	センター方式基礎研修（静岡）全2日
平成20年12月21日		センター方式教育担当者研修（東京）
平成20年12月23日	・ 平成21年1月11日	センター方式基礎研修（鹿児島）全2日
平成20年12月24日	～ 平成20年12月26日	第23回ユニットリーダー研修（ウェルシティ東京）
平成21年1月7日	～ 平成21年1月9日	第24回ユニットリーダー研修（メルパルク京都）
平成21年1月9日	・ 平成21年1月22日	センター方式基礎研修（富山）全2日
平成21年1月10日	・ 平成21年2月12日	センター方式基礎研修（兵庫）全2日

平成21年1月11日	センター方式テーマ型研修（東京）
平成21年1月14日 ～ 平成21年1月16日	第9回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成21年1月14日 ～ 平成21年1月16日	第25回ユニットリーダー研修（燕三条ワシントンホテル/三条・燕地域リサーチコア）
平成21年1月17日	センター方式実践研修（大阪）
平成21年1月18日 ・ 平成21年2月11日	センター方式基礎研修（大阪）全2日
平成21年1月21日 ～ 平成21年1月23日	第26回ユニットリーダー研修（メルパルク岡山/岡山国際交流センター）
平成21年1月26日 ～ 平成21年1月28日	第27回ユニットリーダー研修（福岡国際会議場）
平成21年1月28日 ～ 平成21年1月30日	第28回ユニットリーダー研修（ＪＡ共済埼玉ビル）
平成21年2月4日 ～ 平成21年2月6日	第10回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成21年2月4日 ～ 平成21年2月6日	第29回ユニットリーダー研修（ショーケー本館ビル）
平成21年2月9日 ～ 平成21年2月11日	第30回ユニットリーダー研修（熊本全日空ホテルニュースカイ）
平成21年2月11日 ～ 平成21年2月13日	第31回ユニットリーダー研修（金山プラザホテル）
平成21年2月18日 ～ 平成21年2月20日	第11回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成21年2月18日 ～ 平成21年2月20日	第32回ユニットリーダー研修（岡山国際交流センター/ピュアリティまきび）
平成21年2月20日 ・ 平成21年3月9日	センター方式基礎研修（三重）全2日
平成21年2月25日 ・ 平成21年3月4日	センター方式基礎研修（大阪）全2日
平成21年2月25日 ～ 平成21年2月27日	第33回ユニットリーダー研修（KKRホテル名古屋/ウィルあいち）
平成21年3月3日	後期ユニットケア指導者養成研修 修了時研修（東京センター）
平成21年3月4日 ～ 平成21年3月6日	茨城県ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成21年3月7日	『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン2008　発表会
平成21年3月11日 ～ 平成21年3月13日	第12回ユニットケア施設管理者研修（東京センター）
平成21年3月14日	研修会「認知症の人のためによりよい医療サービスを」（東京センター）
平成21年3月17日	ユニットケア研修フォーラム（日本青年館）
平成21年3月19日	センター方式活用　町づくり報告会(灘尾ホール)
平成21年3月20日	センター方式実践報告会（灘尾ホール）

2008年度 認知症介護研究・研修東京センター 年報

発行日：2009（平成21）年3月31日

発　行：社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
TEL. 03-3334-2173
FAX. 03-3334-2718
E-MAIL. tokyo_dcrc@dcnet.gr.jp
URL. http://www.dcnet.gr.jp/tokyo/

社会福祉法人　浴風会
認知症介護研究・研修東京センター
〒168-0071　東京都杉並区高井戸西1-12-1
TEL. 03-3334-2173　FAX. 03-3334-2718
東京センター代表　E-mail : tokyo_dcrc@dcnet.gr.jp